

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	西 村 昭 徳
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心に授業を行う（視聴覚教材やワークシートを用いて可能な限り体験的に学習する）
科 目 の 目 的	心理学の基礎を学ぶと同時に、心理学的な視点から自己理解・他者理解を深める
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす
関 連 科 目	臨床心理学、カウンセリング
成 績 評 価 方 法	出席状況、受講態度・意欲、期末試験を基にして総合的に評価を行う

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学 A 基礎理論 a) 歴史, b) 防衛機制と転移
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性	【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学 A 基礎理論 c) 学習・記憶・行動
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、記憶の障害	【 . 人体の構造と機能及び心身の発達】 4. 人間発達学 A 総論 a) 定義、目的, b) 発達理論, c) 発達段階と発達課題 d) 身体発達, e) 精神発達, f) 心理社会的発達 B 各期における発達 a) 小児期, b) 青年期, c) 老人期, d) 老年期
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習	【 . 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学 B 正常および異常心理 a) 児童・青年期心理, b) 成人・高齢者心理, c) 障害者心理
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、欲求不満と葛藤	
6	心理学的性格論	性格とは何か？、性格の類型論と特性論	
7	心理学的性格論	性格検査とその活用	
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論	
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ	
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果	
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学	
12	臨床心理学	ストレスと心の病理	
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド	
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入	
15	まとめ		

教 科 書	基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山祐嗣・山口素子・小林知博 編著（北大路書房）
参 考 書	授業中に適宜紹介する

授業科目名	生命倫理	単位認定者	森川 功
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関連科目	医療民俗学、法学（医療法規含）
成績評価方法	レポート（複数回提出）の成績および授業への貢献度（質疑応答など）により総合的に判断する。履修者の理解の程度によってはテストを実施する場合もあり得る。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験 ニュールンベルク綱領 タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則（看護倫理を含む）	
3	基本倫理原則（1）	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互恵の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターナリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	
4	基本倫理原則（2）	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマヌエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
5	基本倫理原則(3)	<p>カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性</p> <p>公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として</p>	
6	インフォームド・コンセント	<p>インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」</p>	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	<p>人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL</p>	
8 ~ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	<p>個別的な論題については履修者が希望するものを選びあげる。特に希望がない場合には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢患者による治療拒否 2) 植物状態患者(死の定義) 3) 安楽死 4) 生殖補助医療 5) 出生前検査・診断 6) 新生児医療 <p>などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。</p>	

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授業科目名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的な配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	個人・家族学と生活 地域社会学 心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	教育	「教育」を考える 個の資質・家庭・学校・社会・制度	
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」	
3	学と習 (動機付け)	「覚える」「分かる」 動機づけ(外的・内的)	
4		事例研究	
5	心の教育	宗教的心情の教育 道徳教育	
6	発達と教育	教育の適時性 胎児期・乳児期	
7		児童期・青年前期	
8	学校教育 学校教育の効果	教育内容 教育方法 事例研究	
9	教育制度	「量の教育」から「質の教育」へ 「知識」から「学び方」へ 教育課程	
10	ゆれる教育改革	現行の教育制度 教育制度の変遷 「生きる力」と「問題解決の能力」	
11	教育関係法	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係	
12	学校不応	学校不応・いじめ・引きこもり 事例研究	
13	特別支援教育	心身に障害のある児童 発達に偏りのある児童	
14		インテグレーション・・・	
15	まとめ		

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	伝統的な誕生と死に関する文化は大きく変化しようとしている。日本人が長く持ち伝えたまじないや言い伝えの中から病気観や身体観に関する身近なデータを分かりやすく紹介し、日本人の生命観と医療文化について学ぶ。
学習到達目標	(1) 誕生と死に関する民俗の過去と現在について知る。 (2) 病気・健康の歴史と文化を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理 個人・家族と生活
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
	(1) 俗信・暦と医療文化 (2) 出産と医療文化 (3) 生命観と医療文化	くしゃみをしたら(俗信と靈魂) 入院の日は選べない(大安と仏滅) 病は気から(元気の語源) 今年の干支は寅年(干支の知識) あの年は出生数46万人減(俗信と近代医療) 子育て幽霊(産死と身体観) 読めない名前(現代の名付け) たかが名前されど名前(名前の意味) 双子は石を投げられた(双子観の変化) 男性産婆の話(助産文化とジェンダー) どちらにしようかな(まじないと医療) 徒然草を読む(生と死の文化) 長寿銭を知ってる?(長寿銭と長寿観) 看取りと臨終(介護問題と家族) いつが死なのか?(伝統文化と医療)	

教科書	『誕生と死の民俗学』 板橋春夫著 吉川弘文館
参考書	

授業科目名	健康スポーツ理論	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	選 択

指導方法	テキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科目の目的	理学療法士の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを実践するための理論について学習する。
学習到達目標	運動における生体の生理的变化（筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など）の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関連科目	生理学 ・ 、解剖学 ・ 、運動生理学
成績評価方法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について	
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴	
3	障害とスポーツ	車いすバスケットボール	
4	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力	
5	運動と呼吸	運動と循環	
6	運動と呼吸	運動と呼吸	
7	運動と内分泌	運動とホルモン	
8	運動と肥満	身体組成と肥満	
9	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール	
10	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見	
11	運動と体温	運動と体温調節	
12	運動と疲労	筋疲労の要因	
13	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化	
14	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「入門運動生理学」勝田 茂（杏林書院）
参考書	講義時に随時案内

授業科目名	健康スポーツ実技	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整（コンディショニング）としてウォーキングを中心に、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法	出席、意欲、態度および実技能力での総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要の解説（高崎キャンパス教室）	
2	実技 1（2コマ）	高山キャンパス、キャンパス周辺、グラウンド、体育館 コンディショニング（体力の調整）、ストレッチ ウォーキング、健康度調査など	
3			
4			
5	実技 2（2コマ）	高山キャンパス、コンディショニング（体力の調整） 12分間走トレーニング	
6			
7	実技 3（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト コンディショニング（体力の調整）	
8			
9	実技 4（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト予備日 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
10			
11			
12	実技 6（2コマ）	グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館車いすバスケットボール	
13			
14	実技 7（2コマ）	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ	
15			

教科書	
参考書	

授業科目名	総合英語	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	保健医療に関する文章を読み、関連するビデオを鑑賞する。
科目の目的	保健医療の分野で使用される英語を学習する。
学習到達目標	保健医療の分野で使用される英語を読む・書く・聞く・話すことができる。
関連科目	教養・専門基礎・専門の各科目
成績評価方法	授業参加，小テスト，期末テストの成績を総合して評価をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	総合英語の学習方法	
2	Unit 1	Stress and Anxiety の講読	
3		Video を見て表現を学ぶ	
4	Unit 2	Vitamins and Supplements の講読	
5		Video を見て表現を学ぶ	
6	Unit 3	Alzheimer ' s の講読	
7		Video を見て表現を学ぶ	
8	Unit 4	Music Therapy の講読	
9		Video を見て表現を学ぶ	
10	Unit 5	Laughter as Medicine の講読	
11		Video を見て表現を学ぶ	
12	Unit 6	Robotic Surgery の講読	
13		Video を見て表現を学ぶ	
14	Review	構文，語彙，語法の復習	
15	まとめ		

教科書	English for Health and Medicine, John S, Lander 著, 朝日出版
参考書	辞書類, たとえばジーニアス英和辞典(大修館), 看護英和辞典(医学書院)

授業科目名	総合英語	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	保健医療に関する文章を読み、関連するビデオを鑑賞する。
科目の目的	保健医療の分野で使用される英語を学習する。
学習到達目標	保健医療の分野で使用される英語を読む・書く・聞く・話すことができる。
関連科目	教養・専門基礎・専門の各科目
成績評価方法	授業参加，小テスト，期末テストの成績を総合して評価をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	総合英語の学習方法	
2	Unit 7	Safe Anestheticsの講読	
3		Videoを見て表現を学ぶ	
4	Unit 8	Physical Therapyの講読	
5		Videoを見て表現を学ぶ	
6	Unit 9	Cosmetic Surgeryの講読	
7		Videoを見て表現を学ぶ	
8	Unit 10	Vaccine Availabilityの講読	
9		Videoを見て表現を学ぶ	
10	Unit 11	Safe Blood and AIDS Preventionの講読	
11		Videoを見て表現を学ぶ	
12	Unit 12	The Visible Human Projectの講読	
13		Videoを見て表現を学ぶ	
14	Review	構文，語彙，語法の復習	
15	まとめ		

教科書	English for Health and Medicine, John S, Lander 著, 朝日出版
参考書	辞書類, たとえばジーニアス英和辞典(大修館), 看護英和辞典(医学書院)

授業科目名	英語表現	単位認定者	柴山森二郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	保健医療の口語英語を解説し、実用の模倣やロールプレイを行う。
科目の目的	保健医療の現場で使用される英語を学習する。
学習到達目標	保健医療の現場で英語を聞く話すことができる。
関連科目	総合英語、
成績評価方法	授業参加、小テスト、期末テストの成績を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	英語表現の学習方法	
2	Unit 10	リハビリテーション室での会話	
3	Unit 11	基本的指示とリスク対策	
4	Unit 12	早期座位とベッドサイド訓練	
5	Unit 13	車椅子と移乗動作	
6	Unit 14	マット上訓練	
7	Unit 15	立ち上がり訓練	
8	Review	Unit 10-15の復讐	
9	Unit 16	立ち上がり訓練	
10	Unit 17	歩行練習	
11	Unit 18	呼吸・排痰訓練	
12	Unit 19	温熱療法・牽引療法	
13	Unit 20	水治療法・利き手交換	
14	Review	Unit 16-20の復讐	
15	まとめ		

教科書	「20 Medical Dialogs」古閑博美、垂石幸与、曾我直隆 著（鷹書房弓プレス）
参考書	

授業科目名	ステップアップ英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	プリントにより進める。講義と受講者の授業参加。
科目の目的	専門分野の文献が読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学習到達目標	専門分野の英語文献が正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関連科目	【関連する教養科目】 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 英語表現 広くは理学療法に関する科目全般に関連する
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、後期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
2	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
3	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
4	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
5	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
6	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
7	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEIC のリスニング問題	
8	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
9	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
10	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
11	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFL のリスニング問題	
12	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検 2 級程度のリスニング問題	
13	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検 2 級程度のリスニング問題	
14	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検 2 級程度のリスニング問題	
15	まとめ		

教科書	プリントを使用する。
参考書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む、書く、聞く、話す」の四能力のうち、特に「聞く、話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらう。また日本語と違うところも判ってもらう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作り、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学力と試験成績を参考の上、成績を評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、四声	
2	発音練習	2. 母音、子音、四声	
3	発音練習	3. 音節表の読む練習	
4	レッスン1, 2	4. 挨拶、自己紹介	
5	レッスン3, 4, 5	5. 数字、曜日	
6	レッスン6, 7	6. 時刻、月日	
7	日常会話1,	7. 動詞「是」の用法	
8	日常会話2	8. 指示詞と疑問詞	
9	日常会話3, 4	9. 副詞	
10	日常会話5, 6	10. 動詞「有」の用法	
11	日常会話7	11. 動詞「在」の用法	
12	日常会話8	12. 年齢の尋ね方	
13	日常会話9	13. 値段の尋ね方	
14	日常会話10	14. 形容詞の表現	
15	まとめ	15. まとめ	

教 科 書	「医療系学生の初級中国語」山田真一 著(白帝社)
参 考 書	

授業科目名	コリア語	単位認定者	金子福子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	コリア語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。
関連科目	国際関係論
成績評価方法	授業中に数回小テストを行う。期末テストを行い、総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	第1課	<p>コリア語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら、基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。</p> <p>前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。</p> <p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングルの読み方(1) 基本母音と二重母音 ・ハングルの読み方(2) 基本子音と濃音 ・ハングルの読み方(3) パッチム ・映像資料を通して韓国文化を学ぶ <p><文法と会話></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私はイミエです」 ・「名前は何ですか」 ・「これは机です」 ・「ここはどこですか」 ・「もしもし」 ・「私も映画が好きです」 ・「ビビンバありますか」 ・「韓国語を勉強しています」 ・「ソウルに行きたいです」 ・韓国映画を通して聞き取り練習 ・まとめ 	
2	第2課		
3	第3課		
4	韓国の文化紹介		
5	第4課		
6	第5課		
7	第6課		
8	第7課		
9	第8課		
10	第9課		
11	第10課		
12	第11課		
13	第12課		
14	ヒアリング		
15	まとめ		

教科書	「ハッピー・コリアン」 金賢信・金菊熙 著 (白帝社) CD付
参考書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授 業 科 目 名	個 人 ・ 家 族 と 生 活	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	職業、家族、生活に関する見識を肥やし、自身の人生、および人生・生活を負った存在である対象者と家族のトータルなアセスメントに基づく医療サービスの提供を可能にする基礎的力量を形成する
学 習 到 達 目 標	1. 家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自身の今後、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 個人・家族と社会 地域社会学 法学
成 績 評 価 方 法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース	
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク - 夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期	
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから	
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族	
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ	
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻	
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見	
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続	
10	家族をめぐる制度(4)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴 - 氏と墓 “夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案	
11	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得：収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳	
12	家庭経済(2)	モノの購入 - 家計支出、家計支出の内訳、家事労働：消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄：貯蓄の意味、種類	
13	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活	
14	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	プリントによる
参 考 書	「21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた」落合恵美子(有斐閣)2004 「迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体」山田昌弘(有斐閣)2005 「DV防止とこれからの被害当支援」戒能民江(ミネルヴァ書房)2006 「児童虐待」川崎二三彦(岩波新書)2006、「雇用流動化のなかの家族」船橋恵子他(ミネルヴァ書房)2008

授業科目名	個人・家族と社会	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	社会的慣習・慣行(慣習上の制度)・通念と個人や家族のありようの相互関係を考えられるようになる
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる－「性別」を切り口に 3.2.のような問題を乗り越えた、より公正で、どのような人にもより生きやすい社会の姿を認識できる－「性別」を切り口に 4.3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる－「性別」を切り口に
関連科目	個人・家族と生活
成績評価方法	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	社会的慣習・慣行・通念、社会構造	社会的慣習・慣行・通念、社会構造 社会的慣習・慣行・通念、社会構造と個人の関係	
2	慣習慣行通念、構造を読み解く－性別を切り口に(1)	社会構造としての2つの性別分業 第1の性別分業：社会的労働と私的労働	
3	慣習慣行通念、構造を読み解く－性別を切り口に(2)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働(続)	
4	慣習慣行通念、構造を読み解く－性別を切り口に(3)	第2の性別分業：社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係	
5	慣習慣行通念、構造が生んできた問題を見つめる(1)	一次生産物次元の問題：経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)	
6	慣習慣行通念、構造が生んできた問題を見つめる(2)	二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力を例にDV(1)	
7	慣習慣行通念、構造が生んできた問題を見つめる(3)	二次生産物次元の問題：女性問題 女性に対する暴力を例にDV(2)	
8	慣習慣行通念、構造が生んできた問題を見つめる(4)	ハラスメント	
9	慣習慣行通念、構造が生んできた問題を見つめる(5)	児童虐待を理解する	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
10	慣習・行通念、構造が生んできた問題を見つける(6)	児童虐待の防止・対応	
11	慣習・行通念の流動化と公正な社会の追求(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)	
12	慣習・行通念の流動化と公正な社会の追求(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ	
13	ワークライフバランス(1)	ワークライフバランスの考え方、ワークライフバランスの取り組み	
14	ワークライフバランス(2)	子育てをめぐる	
15	まとめ		

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	内閣府「男女共同参画白書 平成22年度版」

授業科目名	地域社会学	単位認定者	坂本祐子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
学習到達目標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	関連し合う教養科目 - 個人・家族と生活 個人・家族と社会 ボランティア活動論 環境学 経済学 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 社会福祉・地域サービス論 障害者スポーツ・レクリエーション論 この科目が基盤となる専門科目 - 生活環境学 日常生活活動学 地域理学療法学 環境理学療法学
成績評価方法	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。	
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)	
6	地域と家族(1)	労働環境の変化と家族	
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容	
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化	
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み	
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法	
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価	
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍	
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク	
15	まとめ	講義内容の振り返り	

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「地域の社会学」森岡清志編（有斐閣アルマ）

授業科目名	ボランティア活動論	単位認定者	竹澤泰子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義 実践
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
学習到達目標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関連科目	
成績評価方法	定期試験。テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である	
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国) 現在行っているNPO法人の活動について	
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論	
4	ボランティア活動の経験談	前橋国際交流協会理事 矢嶋照雄氏 ボランティア活動 竹澤同席	
5	ボランティア活動経験談	NPO カンボジアフレンド会員 天川弘氏のカンボジアに学校設立経験談 竹澤同席	
6	ボランティア活動経験談	交渉中	
7	ボランティア活動のプレゼンテーション調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認 自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。 学生同志発表を採点する。質疑応答	
8	同上	同上	
9	同上	各グループで調査しまとめたことを発表する	
10	ボランティアの調査並びにプレゼンテーション	同上	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	ボランティアについて	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換	
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導	
15	まとめ	レポート提出	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士

教科書	
参考書	「ボランティアという人間関係」原田隆司（世界思想社） シリーズ福祉のこころ1，社福祉の心、2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報者

授 業 科 目 名	法 学 (医 療 法 規 含)	単 位 認 定 者	齋 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。 法的観点から医療を考える。
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。理学療法士の資格と業務、業務の法律上の位置づけ、およびそれらと関連する他法規の事項を理解する。また、医療に関わる問題を法的側面から考える力をつける。
関 連 科 目	経済学・個人家族と生活・個人家族と社会・教育学・理学療法概論
成 績 評 価 方 法	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論	憲法・法律の役割	
2	人権(1)	人権とは何か	
3	人権(2)	家族と人権	
4	人権(3)	労働と人権	
5	民主主義	民主主義と独裁政治	
6	平和(1)	日本の戦争	
7	平和(2)	憲法9条の考え方	
8	医療関係法規(1)	理学療法士・作業療法士法	
9	医療関係法規(2)	保健師助産師看護師法と医師法 - 定義, 免許, 業務	
10	医療関係法規(3)	医療法 - 医療提供の理念、医療提供施設の種類と定義、医療提供に関する情報と安全管理	
11	医療関係法規(4)	医療法 - 病床の種類、医療提供施設各論、公共医療、医療法人	
12	医療に関わる法律問題(1)	医療と自己決定 - 輸血拒否と治療法	
13	医療に関わる法律問題(2)	医療と自己決定 - 脳死と臓器移植	
14	医療に関わる法律問題(3)	医療と自己決定 - リプロダクティブ・ライツ/ヘルス	
15	まとめ		
	各回の授業内容と順番は、変更することがある。		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 - 』岩波ジュニア新書

授業科目名	経済学	単位認定者	飯島正義
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義形式。
科目の目的	経済学は私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにし、その知識を私たちの経済生活に活かしていくことを目的とした学問です。したがって、経済学が明らかにしようとしているのは私たちの経済生活そのものであり、極めて実践的な学問です。
学習到達目標	1. まず経済学の基礎理論を理解できるようにすること。 2. その上で現実の経済現象について理解できるようにすること。
関連科目	
成績評価方法	平常点(出欠席や学習態度)、授業中に行う確認、学期末試験で総合的に評価します。(絶対評価)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	イントロダクション	・授業内容とその進め方、成績評価についての説明 ・経済学は何を明らかにする学問か	
2	経済学の考え方(1)	・古典派とケインズ学派	
3	経済学の考え方(2)	・古典派とケインズ学派	
4	国民経済のしくみ	・経済の3主体と国民経済のしくみ	
5	市場メカニズム	・市場メカニズムとは何か	
6	市場の失敗	・市場の失敗、外部経済	
7	政府の役割	・政府の役割とは、財政・金融政策	
8	物価	・物価とは、物価の変動、インフレ・デフレ	
9	国内総生産	・国内総生産(GDP)、名目GDPと実質GDP	
10	経済成長	・経済成長とは、日本の経済成長	
11	景気変動	・景気変動に関する学説、景気動向指数を読む	
12	貿易と国際収支	・比較優位説、国際収支表を読む	
13	為替レート	・為替レートとは何か、私たちへの影響は?	
14	経済統計を読む	「国民経済計算」を読んでみよう	
15	まとめ	まとめ	

教科書	使用しません。当日プリント資料を配布します。
参考書	随時紹介します。

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験（80％）、出席・受講状況（20％）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち	
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源	
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷	
5	典型七公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病	
6	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成	
7	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し	
8	地球温暖化()	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策	
9	地球温暖化()	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任	
10	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー	
11	廃棄物問題()	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物	
12	食料生産と環境	食料生産の現状、窒素循環、フードマイレージ	
13	循環型社会	3R、熱回収、適正処分	
14	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり	
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる	

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成21年版環境白書」環境省編（ぎょうせい）

授業科目名	情報処理	単位認定者	西谷 泉
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科目の目的	Word、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学習到達目標	Word、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関連科目	「情報処理」(後期)...「情報処理 (前期)」「情報処理 (後期)」を連続して受講することが望ましい。
成績評価方法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネットの基礎的内容を指導する	
2	データの電子化、個人情報の秘密保持	データの電子化、個人情報の秘密保持の基礎知識について指導する	
3	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する	
4	文字入力	Word を使った文字入力を指導する	
5	文書入力、文書の作成	簡単な文書作成を指導する	
6	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する	
7	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する	
8	文書と表の結合	文書中に表を挿入することを指導する	
9	データベース、レコードリンケージ	データベース、レコードリンケージについて指導する	
10	ビジュアルな文書の作成	ビジュアル化によって、見やすく分かりやすい文書の作成を指導する	
11	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する	
12	プレゼンテーションの基本事項 プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの基本事項・留意事項を指導する 具体的なプレゼンテーションのスライドの作成を指導する	
13	課題発表	各受講生が独自に調べた内容を、PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
14	課題発表	各受講生が独自に調べた内容を、PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「30時間でマスターWindowsVista対応 Excel2007」実教出版編修部編(実教出版) 「30時間でマスターVista対応プレゼンテーション+PowerPoint2007」実教出版編修部編(実教出版)
参考書	

授業科目名	情報処理	単位認定者	西谷泉
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科目の目的	Excelを使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学習到達目標	Excelを用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をPowerPointを用いてプレゼンテーションできるようにする。
関連科目	「情報処理」(前期)...「情報処理(前期)」「情報処理(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成績評価方法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	統計学の基礎	統計学の歴史について指導する	
2	統計学の基礎	統計学の基本的事項について指導する	
3	Excelの基本	Excelの基本的事項について指導する	
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均の求め方について指導する	
5	関数の活用	Excel内の種々の関数について指導する	
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値の求め方について指導する	
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する	
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する	
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する	
10	データベースの基本事項	種々のデータのデータベース作成について指導する	
11	データのソート、検索、集計 WordへのExcelの埋め込み	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する	
12	WordへのExcelのリンク埋め込み	WordへのExcelの埋め込みについて指導する	
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容をPowerPointを用いてプレゼンテーションを行う	
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容をPowerPointを用いてプレゼンテーションを行う	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「30時間でマスター WindowsVista対応 Excel2007」実教出版編修部編(実教出版)
参考書	

授業科目名	生活の中の数学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を学び、将来、理学療法士として数理現象を見出し、定量的に理表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学習到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	
成績評価方法	筆記試験。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを促す。	
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。	
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で定量的なセンスを発揮することを促す。	
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。	
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを応用、活用することを考える。	
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。	
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。	

教科書	なし
参考書	なし

授業科目名	大学の学び入門	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ
学習到達目標	1. 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違いを理解する、 2. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める、 3. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)
関連科目	理学療法概論、理学療法セミナー
成績評価方法	出席状況、課題への取り組み状況、提出状況による単位認定

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、学習記録と生活記録 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い	
2	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキルー“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキルー時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力	
3	課題を立てる	前回授業を踏まえた自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する	
4	アカデミック・スキルを磨く(1)聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか	
5	アカデミック・スキルを磨く(2)読む	本や資料を読む	
6	アカデミック・スキルを磨く(3)読む	本や資料を読む	
7	アカデミック・スキルを磨く(3)調べる	情報を探す	
8	アカデミック・スキルを磨く(4)考える	課題を見出す、解決の筋道を組み立てる、論理を組み立てる	
9	アカデミック・スキルを磨く(5)書く	レポートの書き方：その1	
10	アカデミック・スキルを磨く(6)書く	レポートの書き方：その2	
11	アカデミック・スキルを磨く(7)書く	例題レポートの作成：その1	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
12	アカデミック・スキルを磨く(8)書く	例題レポートの作成: その2	
13	アカデミック・スキルを磨く(9): 書く 授業評価について	例題レポートの完成 学生による授業評価のガイダンス	
14	スチューデント・スキルを磨く: 情報技術 のルールとマナー	インターネット利用のルールとマナー	
15	まとめ	まとめ-課題はいかに追求されたか	

教科書	使用しない(プリント、ワークシート)
参考書	「大学生生活ナビ」玉川大学コア・FYE 教育センター(玉川大学出版部)2006 「スタディ・スキル入門」天野明弘・太田勲他(有斐閣)2008 「大学生諸君! - 今求められる問題解決力 - 」早川修(流通経済大学出版会)2008 「理科系の作文技術」木下 是雄(中公新書)1981

授業科目名	生 物 学	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高等学校までの生物学の学習と、理学療法学の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	以下 3 事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造、機能と細胞の分化 3. 遺伝の分子メカニズム
関 連 科 目	生理学、生化学
成 績 評 価 方 法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命を支える物質 - その 1 -	生命現象の特質、生物学の研究対象や方法、について学ぶ。 水と生命との関わり、タンパク質の構成単位であるアミノ酸の構造や種類、タンパク質の構造と機能について学ぶ。	
2	生命を支える物質 - その 2 -	遺伝物質である核酸の構成単位、構造などについて学ぶ。また、脂質、糖などの構造と機能、無機質の役割について学ぶ。	
3	生命の単位 - その 1 - ウイルス、原核細胞と真核細胞 真核細胞 - 細胞膜と細胞質基質	ウイルス、原核細胞と真核細胞の大きさや形、特徴などについて学ぶ。 次に真核細胞について、細胞膜の構造と機能、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応などについて学ぶ。	
4	生命の単位 - その 2 - 真核細胞 - 核、小胞体、ゴルジ装置、リソゾーム	核や核膜の構造とはたらきについて学ぶ。また、細胞の種類に応じた核の形態変化や機能の変化を概説する。 粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴などについて学ぶ。次にゴルジ装置の構造と機能、小胞体とゴルジ体の関係、リソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について解説する。	
5	生命の単位 - その 3 - 真核細胞 - ペルオキシソーム、ミトコンドリア、色素体、細胞骨格	ペルオキシソーム、ミトコンドリア、色素体の構造と機能について学ぶ。 細胞骨格の種類とその役割について学ぶ。	
6	生命活動とエネルギー - 酵素、光合成、呼吸	生体内化学反応を触媒する酵素やエネルギー - 運搬を担う ATP について学ぶ。 光エネルギー - を利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成について学ぶ。また、生体のエネルギー製造工場といわれるミトコンドリア内で起こっている反応(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)や、その結果生ずるエネルギーの行方について学ぶ。	
7	細胞の増殖・生殖細胞の形成	細胞周期、増殖周期と成長周期について概説する。体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂の違い及び、細胞周期 S 期、G2 期、M 期、G1 期の特徴について学ぶ。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
8	細胞の分化と幹細胞 細胞の死 アポトーシス	細胞の分化について発生段階との関連で学ぶ。また各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞などについて概説し、その医療分野における応用の可能性について述べる。 また、細胞の増殖とアポトーシスとのバランスによって多細胞体の体制はコントロールされている。その機構を学ぶ。	
9	ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	ヒトの精子や卵子の形成、その過程におけるキアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義について学ぶ。また、ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化について概略を学ぶ。	
10	- 生命の自己増殖 - 染色体の構造、遺伝子の本体 DNA とその複製	DNA から染色体への構造の変化について学ぶ。 また、DNA 複製機構 (DNA の開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースと DNA ポリメラーゼ、DNA リガーゼの役割など) について学ぶ。	
11	遺伝情報の発現 - その 1 -	遺伝情報発現の機構について学ぶ。原核細胞と真核細胞における情報発現機構の相違について学び、また、真核細胞の遺伝情報発現の過程を詳しく学ぶ。	
12	遺伝情報の発現 - その 2 -	原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール機構の違い、特定の時期 (環境) に特定の遺伝子が発現する機構 (あるいは発現しない機構) について学ぶ。 性染色体の不活化についても概説する。	
13	ヒトの遺伝	ヒトの遺伝について、一般知識、常染色体性遺伝病と伴性遺伝病、ミトコンドリア病、多因子遺伝病、染色体とその異常、および先天異常とその発症要因について学ぶ。	
14	種々の要因による DNA の変化と人体への影響、	放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等による DNA の損傷機構や損傷によって引き起こされる具体的影響、及び生体の備わっている DNA 修復機構について学ぶ。	
15	まとめ		

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社 高校で生物を受講した人 はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社

授 業 科 目 名	化 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、理学療法士に必要な化学の基本を学ぶように進める。
学 習 到 達 目 標	医学に重要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験 (8 0 %) 出席・受講状況 (2 0 %)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか	
2	物質の成り立ち	元素、原子と分子	
3	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか	
4	物質の変化	酸化還元、エネルギーの出入り	
5	物質の状態	固体・液体・気体	
6	物質の状態	溶液、コロイド、イオン	
7	有機化合物	炭素の性質、炭化水素	
8	有機化合物	アルコール、有機酸、有機塩基	
9	高分子化合物	炭水化物、脂質	
10	高分子化合物	タンパク質	
11	高分子化合物	核酸と遺伝子	
12	生命と化学	生体高分子、酵素	
13	医薬品とは何か	生体に作用する物質	
14	医薬品とは何か	医薬品になるもの	
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる	

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授業科目名	物 理 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演示実験・講義
科 目 の 目 的	高等学校で物理関係の科目を履修していない学生を想定し、理学療法士として最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象について、定量的・数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	運動学 物理療法学など
成 績 評 価 方 法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	力学 (物理学とは)	つりあい 物理量と単位 質量・距離・時間・ ベクトル	
2		慣性の法則 質量と力	
3		運動の法則 万有引力・重力の加速度	
4		速度と加速度 グラフの意味	
5		エネルギー保存の法則 回転運動と剛体の力学	
6	熱力学	気体分子の運動	
7		熱と温度・ ボイル・シャルルの法則	
8		ものの暖まり方	
9	波	波の性質	
10		音・光(放射)	
11	電磁気学	電流のはたらき 発熱・発光	
12		電流と磁気	
13		電磁誘導・電磁波・放射線・	
14	現代物理学入門	原子の構造	
15	まとめ		

教 科 書	使わない
参 考 書	授業時に紹介する

授業科目名	解剖学	単位認定者	内藤延子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・骨実習 【骨実習は、講義時間外に各自で行う。骨標本の全ての骨について、形態的な特徴をスケッチする】
科目の目的	理学療法を学ぶための最も基本的な知識である人体の構造を学ぶ。安静にしている時・動いている時、身体はどこが、どのように働いているのかに注目して、骨格系、筋系、脈管系、神経系が複合的に作用していることを学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、理学療法を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	解剖学 生理学 ・ 運動生理学 運動学 各臨床科目
成績評価方法	骨実習レポート(5-6月提出)、課題レポート、まとめ試験(4回)、定期試験(1回)で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	1.解剖学概説	はじめに---『自分の身体を知ろう』	-1.解剖学 A 総論 a 定義、目的、分類 b 細胞と組織 c 形態発生 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 関節の構造と分類 c 各部の骨、靭帯、間接 C 筋系 a 筋の構造と形態、作用 b 各部の筋、腱 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 c 静脈系 d リンパ系
2		1.身近な身体情報を整理してみよう	
3		2.身体情報は何を反映しているのだろうか	
4		3.「生体の調節機構」はどうなっているのだろうか	
5			
6	まとめ-1(60分)	身体の基本構築について	
7	2.上肢の構成	上肢の骨格、関節、靭帯、筋、血管系、神経の構成を理解して、説明出来るようにする。	
8			
9			
10			
11			
12	まとめ-2(60分)	上肢について：	
13	3.下肢の構成	下肢の骨格、関節、靭帯、筋、血管系、神経の構成を理解して、説明出来るようにする。	
14			
15			
16			
17			
18	まとめ-3(60分)	下肢について：	
19	4.体幹の構成	体幹の骨格、筋、心臓血管系、内臓(肺、心臓、腸管、腎臓など)の位置関係、神経(脊髄と脊髄神経叢)の構成を理解して、説明出来るようにする。	
20			
21			
22			
23	5.頭部の構成	頭部、顔面の骨格、筋、血管系、感覚器、神経(脳と脳神経、主な伝導路)の構成を理解して、説明出来るようにする。	
24			
25			
26			
27			
28	まとめ-4(60分)	神経系について：(中枢神経、末梢神経、自律神経系)	
29	脳の血管系		
30	まとめ5(90分)	全範囲	

教科書	・解剖学講義 伊藤 隆 著 (南山堂) ・ネッター解剖学アトラス (訳)相磯貞和 著 (南江堂) ・解剖トレーニングノート 竹内修二 著 (医学教育出版社)
参考書	イラスト解剖学 松村 譲児 中外医学社, カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで (訳監修)井上貴央 西村書店

授業科目名	解剖学	単位認定者	小林 寛
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	解剖学 を補足する。
学習到達目標	循環器、内臓、感覚器、皮膚に関する基本を習得させる。
関連科目	解剖学 、生理学 ・ 、解剖学実習
成績評価方法	試験で評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	循環器系	心臓	-1.解剖学 E 脈管系 a 心臓 b 動脈系 c 静脈系 d リンパ系 F 内蔵諸器官 a 消火器 b 呼吸器 c 泌尿・生殖器 d 内分泌腺 G 感覚器
2			
3		動脈系	
4		静脈系、胎生期の循環器系	
5	内臓学	リンパ系	
6		消化器系（口腔～大腸）	
7		消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）	
8		呼吸器系	
9		泌尿器系	
10		男性生殖器	
11		女性生殖器	
12	感覚器系	内分泌系	
13		外皮	
14		視覚器	
15		平衡聴覚器	
		嗅覚器、味覚器、まとめ	

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学講義 伊藤 隆 著（南山堂） ・ネッター解剖学アトラス （訳）相磯貞和 著（南江堂） ・解剖トレーニングノート 竹内修二 著（医学教育出版社）
参考書	

授業科目名	解剖学実習	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第2学年	学期	通年
単位数	1単位(22.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人体組織学の概要について理解させる。
学習到達目標	人体の基本的な組織構造について説明できる。
関連科目	解剖学、解剖学
成績評価方法	試験による。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	細胞	細胞の構造、細胞の活動、細胞の一生	
2	上皮組織	上皮組織の一般的な特徴、分類、腺	
3	支持組織	結合組織、軟骨組織、骨組織	
4	筋組織	骨格筋組織、心筋組織、平滑筋組織	
5	神経組織	神経細胞、神経線維、シナプス、神経膠細胞、シュワン細胞	
6	ここまでの復習	ここまでの復習	
7	脈管系	血管、心臓、リンパ管系	
8	血液と骨髄	血液、骨髄	
9	リンパ性器官	リンパ小節、リンパ節、扁桃、脾臓、胸腺	
10	消化器系	口腔、咽頭、食道	
11	消化器系	胃、小腸、大腸	
12	消化器系	肝臓、胆嚢、膵臓	
13	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺	
14	ここまでの復習	ここまでの復習	
15	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道	
16	男の生殖器	精巣、精巣上体、精管、付属性腺、精液、陰茎	
17	女の生殖器	卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、胎盤	
18	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎	
19	皮膚	表皮、真皮、皮下組織、角質器、皮膚腺、皮膚の知覚装置	
20	感覚器系	視覚器	
21	感覚器系	平行聴覚器、味覚器、嗅覚器	
22	ここまでの復習	ここまでの復習	

教科書	「入門組織学」牛木辰男(南江堂)
参考書	「組織学」伊藤隆、安部和厚(南山堂)

授業科目名	表面解剖学と触診法	単位認定者	高橋正明
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	複数教員により演習形式で授業を進める。
科目の目的	理学療法士は運動器および運動機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表面から触知できる能力であり、その修得がこの科目の目的とするところである。また、運動学と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実際に理解できるようになることも目的である。
学習到達目標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらについて名称を言うことができる。
関連科目	関連し合う科目 - 解剖学 解剖学 運動学 この科目が基礎となる科目 - 全ての専門科目
成績評価方法	実技試験，記述試験，授業への出欠，演習参加への積極性を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	刈インテ-ション	刈インテ-ション	-1. 解剖学 H. 体表解剖
2	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
3	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
4	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習	
5	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習	
6	肩甲帯・上腕	肩甲帯・上腕の体表解剖演習と触診実習	
7	肩甲帯	肩甲帯の体表解剖演習と触診実習	
8	頭・頸部	頭・頸の体表解剖演習と触診実習	
9	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習	
10	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
11	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
12	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習	
13	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
14	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
15	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習	
	足部	足部の体表解剖演習と触診実習	

教科書	「図解 四肢と脊柱の診かた」Hoppenfeld, H 著 野島元雄監訳 (医学書院) 「ネッター解剖アトラス」相磯貞和 (南江堂)
参考書	「触診解剖アトラス 頸部・体感・上肢」Tixa, S 著 奈良勲監訳 「触診解剖アトラス 下肢」(医学書院)

授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。
関 連 科 目	解剖学 ・ 、生化学、運動学 ・ 、運動生理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポート、出席などにより総合的に評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス、 生命とは	生理学の学び方、医療の資質 細胞・組織・器官	a . 細胞の構造 b . 細胞内小器官の構造
2	体液	体液の恒常性、血液の成分と機能	a . 体液の電解質 b . 酸塩基平衡 c . 脱水
3			
4			
5			
6			
7	循環、血液	心臓血管系の基本構造と機能、調節	a . 心臓の構造 b . 心臓の機能 c . 血管の構造 d . 動脈系と静脈系 e . 脈拍 f . 血圧 g . 血液の成 分とはたらき d . 造血 e . 凝固と線溶 h . リ ンパの流れ
8			
9			
10			
11	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調節	a . 気道の構造と機能 b . 器官・肺の構造と機能 c . 呼吸中枢 d . 呼吸に影響を与える因子
12			
13			
14	消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 咀嚼の過程 b . 口腔 c . 咽頭の構造と機能 d . 食道の構造と機能 e . 胃の構造と機能
15			

教 科 書	「標準生理学 第7版」小澤静司ほか(医学書院)
参 考 書	「ギャノン生理学 原書22版」ギャノン著(西村書店) 「カラー人体解剖学」フレディック・H・マティーニ著(西村書店)

授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。
関 連 科 目	解剖学 ・ 、生化学、運動学 ・ 、運動生理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポート、出席などにより総合的に評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	消化と吸収(消化管)	消化管の基本構造と機能、調節	a . 胃の構造と機能 b . 十二指腸, 空調・回腸の構造と機能 c . 結腸、直腸・肛門の構造と機能
2			
3			
4			
5	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器の基本構造と機能、調整	a . 膵臓の構造と機能 b . 肝臓と胆嚢の構造と機能
6			
7			
8	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調整 尿生成、蓄尿と排尿	a . 腎臓の構造 b . 濾過・再吸収分泌 c . 尿量の調節 d . 膀胱と尿路
9			
10	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a . ホルモンとは b . ホルモンの作用機序 c . 様々なホルモン
11			
12			
13	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系 主要な伝導路	a . 神経細胞の生理 b . 神経細胞と情報伝達 c . 中枢神経系を保護する組織 d . 伝達路
14			
15	まとめ		

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	生理学実習	単位認定者	塩崎秀一
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(22.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	実習、講義
科目の目的	主要臓器の機能および、運動器、感覚器とその伝導路を確認・理解する
学習到達目標	心肺機能の把握、測定器具(心電図計、スパイロメーターなど)の取扱、データの判読 動物を使い、神経路とその働きを理解する
関連科目	生理学・解剖学・運動学・運動生理学
成績評価方法	出席とレポート、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2 3 4	ガイダンス 伝導路	生理学実習をするにあたってに注意 運動の伝導路、感覚伝導路、神経のネットワーク	
5 6 7 8	心電図の記録と解析 1	心電図の基本原則、測定の基礎を学び、実際に測定する。解析の基礎を学ぶ。	
9 10 11 12	心電図の記録と解析 2	心電図の測定、解析の基礎をふまえ、さらに高度な解析を試みる。	
13 14 15 16	神経筋標本の作製	神経筋標本を作製し、刺激の大きさや頻度と筋収縮様式との関連を理解する。心筋との比較から、骨格筋と心筋の違いを復習する。	
17 18 19 20	神経伝導速度の測定	実験動物を用いて、神経の基本的な性質を理解する。	
21 22 23	呼吸機能の測定	スパイロメーターを用いて、呼吸機能の測定と解析を行う。フローボリューム曲線の解析も行う。	

教科書	「臨床神経解剖学」井出千束(他)訳(西村書店)
参考書	「フィッツジェラルド神経解剖学」車田正男訳(西村書店) 「心電図読み方ガイド」群馬県立心臓血管センター(メヂカルフレンド社)

授業科目名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	プリント、パワーポイントを使用
科 目 の 目 的	理学療法が対象とする人間の体に関し、「根拠に基づく理学療法」を目指し、化学的視点から基本的で、かつ、臨床に役立つ基礎的知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	生体を構成する化学物質にはどのようなものがあるかを学び、生体内で起こっている生物化学的反應(特に、運動と筋肉・骨、エネルギー代謝)が理解でき、また、それらが疾病の際にどのように変化するかを説明できる。
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学(含食品学)、薬理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験などによる評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生体分子、細胞とエネルギー生成	生体を構成する元素・分子にはどのようなものがあるか。細胞内小器官の生化学的役割分担はどうか。エネルギー(ATP)の生成と利用等を概説する。	
2 3	タンパク質の構造、機能と代謝	タンパク質を構成するアミノ酸の種類にはどのような化学結合は。構成アミノ酸が変わると機能はどうか。変異と病気との関連について例を挙げて述べる。	
4	酵素の性質と働き	酵素はどのようにして機能するのか。その特性、種類、作用機序、血清酵素の診断への利用等を説明する。	
5	ビタミンと疾患	脚気、懐血病や鳥目等が生じる生化学的機序は?	
6 7	糖質の性質と代謝	どんな物質を糖と呼ぶのか。糖はどんな働きをするのか。食事摂取不可となると何が代わりに代謝されるのか。また、糖尿病の病態、診断等について話す。	
8 9	脂質の存在場所、働き、代謝	脂質にはどのようなものがあるのか。それらはどこに存在し、どのような働き、どう代謝されるかを説明。	
10	エネルギー生成機序	生体ではエネルギーはどこで、どのようにして作られるのかについて解説する。	
11	ホルモンと疾患	ホルモンにはどんな物質があり、どこで作られ、どこで、どのように働くのか概説する。また、疾患として甲状腺ホルモン異常について述べる。	
12	生体内における核酸の役割	子は親に何故似るのか。大きなDNAどのようにして核に存在するのか。がんの正体は? 遺伝病は? それらの生化学的機序について話す。	
13	免疫と免疫異常	生体は細菌、ウイルスの侵襲にどう対応するか。抗体や白血球の防御機構はどんなものが説明する。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
14	活性酸素と疾患	活性酸素にはどんなものがあるのか。どこで作られ、どのようなものと反応するか。それらに対する生体の防御機構はどうか等について解説する。	
15		まとめ	

教科書	生物有機化学 生化学編（第2版）マクマ - リ著（丸善）
参考書	レーニンジャーの新生化学「上」、「下」第4版 山梨郁男 監修（廣川） ハーバー・生化学（原著27版）R K Murrayら著（丸善）

授 業 科 目 名	運 動 学	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人の身体運動を機能 - 構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。
学 習 到 達 目 標	1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。 2. 体幹・肢節の関節運動を機能 - 構造の見方で説明できる。 3. 骨、靭帯、筋の関節運動における役割を説明できる。 4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。
関 連 科 目	関連し合う科目 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 ・ この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成 績 評 価 方 法	機能解剖に関する小テスト(クイズ) - - 70% 全体についての定期試験 - - 30%

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	リオエンテーション	運動学とは？ 関節運動 形態と機能	- 3 . 運動学
2	および運動の原則	安定性と可動性 運動の法則 軸旋運動 運動連鎖	A . 総論
3	"	生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心	a . 定義、目的
4	運動器系組織	骨・関節・靭帯の	b . 力の基礎
5	"	筋の発生と組織 収縮のメカニズム	c . 運動器の構造と機能
6	"	筋力 収縮様式 筋張力 共同運動	d . 運動の中枢神経機構
7	機能解剖足部	足関節の形態と運動	B . 四肢と体幹の運動
8	"	足部・の形態と機能	a . 顔面・頭部の運動
9	"	筋の働き	b . 上肢帯と上肢の運動
10	"	アーチ構造	c . 下肢帯と下肢の運動
11	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)	d . 体幹の運動
12	"	半月・靭帯の構造と機能	e . 呼吸運動
13	"	筋の働き	
14	"	立位での役割	
15	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)	
16	"	股関節の運動	
17	"	筋の働き	
18	"	股関節の力学	
19	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)	
20	"	脊柱の運動	
21	"	筋の働き	
22	"	呼吸運動	
23	"	骨盤の運動	
24	機能解剖肩甲帯	肩甲帯・肩関節の機能と構造(体幹クイズ)	
25	"	肩甲帯の関節と運動	
26	"	肩関節の運動	
27	"	筋の働き	
28	機能解剖肘関節	肘関節の形態と運動 (肩甲帯クイズ)	
29	"	筋の働き	
30	まとめ	科目全体のポイントの復習	

教 科 書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医師薬出版)
参 考 書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授業科目名	運動学	単位認定者	高橋正明
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と演習
科目の目的	運動学で触れなかった手指および顎関節の機能解剖, 神経組織と運動に加え, 基本動作, 歩行動作, 動作分析についての学習を進め, 運動学実習と関連させる.
学習到達目標	1. 手指, 顎関節の運動を機能-構造的見方で説明できる。 2. 感覚の運動における役割を説明できる。 3. 神経組織の運動に関する役割を説明できる 4. 基本動作の見方, 正常歩行動作性と安定性の要素で分類できる。
関連科目	関連し合う科目 解剖学 解剖学 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成績評価方法	定期試験と小テスト, および演習への参加度

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	機能解剖手・指関節	手関節の形態と機能	- 3 . 運動学 A . 総論 a . 定義、目的 b . 力の基礎 c . 運動器の構造と機能 d . 運動の中樞神経機構 B . 四肢と体幹の運動 a . 顔面・頭部の運動 b . 上肢帯と上肢の運動 c . 下肢帯と下肢の運動 d . 体幹の運動 e . 呼吸運動
2	"	指の形態と機能	
3	"	筋の働き 手の役割	
4	機能解剖顎関節	咀嚼運動と顎関節	
5	神経組織と反射	中枢神経の構造	
6	"	"	
7	"	反射、反応、姿勢反射と立ち直り反応、	
8	"	姿勢保持と平衡反応、随意運動	
9	バランスと感覚	足関節の戦略と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚	
10	姿勢と基本動作	正常な姿勢、寝返り、起き上がり、立位動作	
11	正常歩行動作	歩行決定要因、歩行周期、歩行の相、	
12	"	筋活動、力学的分析	
13	バランス(演習)	足関節と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚外乱の体験	
14	基本動作(演習)	観察による基本動作分析法	
15	動作分析法	動作分析に必要な機器	

教科書	「基礎運動学 第6版」中村隆一、他 (医師薬出版)
参考書	「関節の生理学 , , 」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授 業 科 目 名	運 動 学 実 習	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (2 2 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実習
科 目 の 目 的	運動学実習は 3 部からなる。第 1 部はレポートを作成するために必要な、単位や数値のまるめ方、レポートの構成や体裁などを学び、自分自身の歩行に関する測定実習を行い、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということを学ぶ。第 2 部は身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。第 3 部は運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。
学 習 到 達 目 標	<p>第 1 部 講義と個人実習1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート作成法（構成，SI 単位，精度・誤差，数値のまるめ，KJ 法，文献利用，体裁など） 2. 直線歩行を行い，時間と歩数から歩行速度，歩幅，歩行率を算出することができる。 3. 5 種類の異なる歩行速度でそれぞれ3分間歩行し，歩行効率を求め最も歩行効率が良い束奴を探る。 <p>第 2 部 個人実習2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二つの方法での身体の重心位置を推定できる。 2. 立位時の圧中心移動を計測し，解釈できる。 3. 立位における身体肢節のアライメントを評価できる。 4. 身体の形態測定ができる。 <p>第 3 部 グループ実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋のトルク値を計測し，解釈できる。 2. 筋電図法を用いた動作分析ができる。 3. 画像を用いた動作分析ができる。 4. 巻き尺，角度計，ノギス等を用いた動作分析ができる。
関 連 科 目	関連し合う科目 - 運動学 ・ 臨床運動学 この科目が基礎となる科目 - 全専門科目
成 績 評 価 方 法	実習・演習への参加・態度、実習レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション	本科目の説明 レポートの書き方	- 3 . 運動学 C . 運動分析・動作分析 D . 姿勢 E . 歩行 F . 運動制御と運動学習
2	個人実習 1	歩行速度・歩幅・歩行率	
3	"	平地歩行での歩行効率	
4	個人実習 2	身体の重心位置を推定、形態計測	
5	"	立位時の圧中心移動計測	
6	"	立位における身体肢節のアライメント	
7	"		
8	グループ実習	グループでローテーションにより下記の実習をする (各課題につき 2 週-4 週)	
~	"		
23	"	筋のトルク値を計測 (BIODEX 実習)	
	"	筋電図法を用いた動作分析 (動作筋電図)	
	"	画像を用いた動作分析 (VICON 実習)	
	"	巻き尺，角度計，ノギス等を用いた動作分析	

教 科 書	中村隆一、他 : 基礎運動学 第 6 版 . 医歯薬出版 理学療法科学学会 : 運動学実習マニュアル . アイベック
参 考 書	江口勝彦 : 知のスキル-レポート作成法- . 配布予定

授業科目名	人間発達学	単位認定者	鈴木 学
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法を行うというのは、それが子どもであれ、大人であれ、ひとりの生身の人間と対峙し、コミュニケーションすることである。したがって、ことを十分に理解することから始まるといっても過言でない。そこで、人間を理解する基礎として、ひとが出生し、成長し、発達して、乳幼児期、学童期、青年期から、成人、また老年期から死にいたるまで各段階における、身体の成長と運動機能の発達、認知的、情緒的、心理的、社会的発達を学び、ひとの一生における動的な人格形成を学習するとともにひとの一生を考察し得るように学習する。
学習到達目標	ひとの生涯発達を把握し、背景にある理論を理解し、ひとり一人の全人的認識を高める。
関連科目	小児科学 老年医学 心理学 臨床神経学 (小児神経学・脳神経外科学)
成績評価方法	授業における態度(とくに出席について)および試験成績により評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	人間発達とは	身体発達総論	4.人間発達学
2	乳幼児の身体発達	形態発達と生理的発達	A.総論
3	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	a.定義、目的
4	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	b.発達理論
5	乳幼児の身体発達	身体運動の発達	c.発達段階と発達課題
6	学齢期の身体発達	形態発達と生理的発達	d.発達評価(DDST, 遠城寺式など)
7	思春期と成人期の身体発達	形態発達と生理的発達	e.運動発達(原始反射含む)
8	心理発達総論	発達の理論	f.精神発達
9	心理発達総論	心理発達の因子と諸理論	g.心理社会的発達
10	子供の心理発達	発達の身体的基礎, 知能の発達	B.各期における発達
11	子供の心理発達	知能と情緒の発達	A.小児期
12	子供の心理発達	社会性, パーソナリティの発達	b.青年期
13	青年期の心理発達	青年期の特徴	c.成人期
14	成人・高齢期の心理	特徴と経年的変化	d.老年期
15	まとめ	まとめ	

教科書	パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定 「リハビリテーション医学講座2 人間発達学」上田礼子著(医歯薬出版)
参考書	

授業科目名	栄養学（含食品学）	単位認定者	後藤香織
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。
学習到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。食品の科学的な特性を学ぶ。
関連科目	解剖学・生化学 生理学・運動生理学 医療概論
成績評価方法	定期試験90% 出席10%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	栄養学の目的 1	<ul style="list-style-type: none"> ・食と私たち ・食育の必要性 ・栄養素の種類と体内での主たる役割 ・一日のエネルギーを求める ・ ・糖質の消化 ・糖質の代謝 ・タンパク質の構造、消化、代謝 ・脂質の構造と種類 ・脂質の消化と代謝 ・電解質とビタミン ・核酸の消化吸収代謝 ・嗅覚と食品 ・色と味 ・咀嚼とテクスチャー 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算 病気と献立、食品の選び方 デジタルカメラ、シャッター音のしない携帯にての授業に用いるスライドを撮影をしてよい。	
2	栄養素の種類と体内での主たる役割		
3	栄養素の科学 1		
4	2		
5	3		
6	4		
7	5		
8	6		
9	7		
10	おいしさの科学 1		
11	2		
12	3		
13	献立とは		
14	献立と病態栄養学		
15	まとめ		

教科書	栄養生化学（メジカルフレンド社） 食品成分表 2010（実教出版）
参考書	看護栄養学（医歯薬出版）

授 業 科 目 名	医 療 概 論	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。
学 習 到 達 目 標	「医学・医療とは何か、現代医療はどのように実践され、どのような問題をかかえているのか」を幅広く理解し、考えることを目標とする。
関 連 科 目	すべての臨床医学、生命倫理など
成 績 評 価 方 法	筆記試験（場合によっては中間試験も行う）および出席、授業態度

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	医学・医療の歩み（1）	「人類の誕生と文化の発達」から「近代医学の基礎と臨床医学の近代化」	1. 医学概論 A. 医学の定義 B. 健康・疾病の概念 a. 生命倫理 b. 健康と病気 c. 病気の原因 d. 病原微生物と滅菌 C. 医療行為 a. 診療補助行為 b. チーム医療 D. 医療行為 c. 診療補助行為 d. チーム医療 E. 医の倫理 a. 医の倫理 b. インフォームド・コンセント c. 守秘義務
2	医学・医療の歩み（2）	「近代医学の発展 現代医療の基礎」	
3	医学・医療の歩み（3）	「今後の医学・医療の方向」	
4	健康と疾病（1）	「健康の概念」、「疾病」	
5	健康と疾病（2）	「生活と健康」	
6	医学と医療（1）	「医学と医療」、「医療の本質」	
7	医学と医療（2）	「医療の実践」	
8	わが国の医療供給体制（1）	「医療供給体制の現状と整備の経過」	
9	わが国の医療供給体制（2）	「医療関係者の現状と養成の実態」	
10	わが国の医療供給体制（3）	「医療保障の現状と課題」	
11	現代医療における諸問題（1）	「医療の進歩と医の倫理」	
12	現代医療における諸問題（2）	「医療における患者の権利」、「病状（真実）告知」	
13	現代医療における諸問題（3）	「脳死と臓器移植」	
14	現代医療における諸問題（4）	「死と生命保持、安楽死、死を共有する医療」	
15	現代医療における諸問題（5）	医療概論まとめ	

教 科 書	「新体系看護学 6 現代医療論」（メヂカルフレンド社）
参 考 書	「学生のための医療概論」 千代豪昭 医学書院、「ヒトゲノムのことが面白いほどわかる本」大脳博義 中経出版、「ケースブック医療倫理」 赤林 朗、大林雅之 医学書院

授 業 科 目 名	病 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症（免疫・膠原病）腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関 連 科 目	解剖学 ・ 生理学 ・ 生化学 内科学 老年医学
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論・内因・外因・公害病と医原病・疾病の分類。	-1. 病理学概論 A. 病因論 a 内因と外因 b 細胞組織の病理学的変化 B. 退行性病変と代謝異常 a 萎縮・変性・壊死 b 代謝異常 C. 進行性病変 a 肥大と再生 b 創傷治癒と異物処理 D. 循環障害 E. 炎症と免疫 a 炎症 b 感染と免疫 c アレルギー F. 腫瘍 G. 先天異常 a 遺伝 b 奇形 H. 老化
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	-1. 人体の構造と機能 A 総論 B. 骨格系 C. 筋系 D. 神経系 E. 呼吸器系 F. 循環器系 G. 感覚器系 H. 運動器系
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理．腫瘍の発生原因．がん発生の外因．がん発生の内因．腫瘍の診断と治療．がんの予防．	
12	老化と死	老化とは．ホメオスタシスの老化．主要組織・臓器の老化．死について．	
13	病理検査	病理検査の意義．細胞診．生検組織診．手術時の迅速診断．病理解剖．病理組織・細胞診標本の作製課程．	
14	その他	必要に応じて上記を補う．	
15	その他	必要に応じて上記を補う．	

教科書	
参考書	

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関 連 科 目	生理学 ・ 生化学 医療概論 小児看護学 母性看護学 老年看護学
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法学科
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識、薬物治療に影響を与える因子、 投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。	
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬、抗痙攣薬（抗てんかん薬）、 筋弛緩薬、抗パーキンソン薬。	
4	自律神経薬、 オータコイド	自律神経の基礎知識、コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬（付：胃酸分泌抑制薬）、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬、オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用。	
5	強心薬、抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬（ジギタリス）の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策、抗狭心症薬、抗不整脈薬。	
6	利尿薬、 降圧薬。	利尿薬、利尿薬の臨床的応用、 降圧薬、抗動脈硬化薬。	
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬、駆虫薬、 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬、 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬、 開発と化学療法、副作用と組み合わせ。	
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤、免疫について、免疫療法。	
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法、消毒薬の濃度と殺菌速度、 呼吸器病薬、抗結核薬。	
11	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤、 造影剤、放射性医薬品。	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法学科
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤・点眼薬・輸液	ショックの原因別分類・ショックの対応と薬剤・ 点眼薬・輸液の目的・輸液剤。	
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬・ビタミン剤	中毒の状態・急性中毒に対する処置・解毒剤・ 排泄と吸着・代謝賦活薬・ビタミン剤	
14	小児・妊婦・高齢者 に対する薬物療法・ 嗜好品の薬理と薬物 相互作用	小児の薬物療法・妊婦の薬物療法・高齢者の薬物療法・ 嗜好品の薬理・薬物相互作用。	
15	薬剤の安定性：保存 および混合の問題点・ まとめ。	薬剤の保存・薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）。	

教 科 書	
参 考 書	「新版看護学全書 6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (7 . 5 コマ)	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学である、活動であることを理解する。
学習到達目標	生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する
関連科目	生命倫理 環境論 地域社会学 情報学 救急・免疫・感染症学
成績評価方法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	-1. 医学概論 E. 保健と医療 a) 医療供給制度 b) 母子保健 d) 成人保健 e) 老人保健 f) 精神保健 g) 産業保健 h) 感染症対策
2	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準	
3	食と公衆衛生 国民の健康と保健統計	食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化	
4	同上 疫病の疫学と予防	年齢調整死亡率の意義 疫学の方法、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング	
5	同上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV対策	
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度	
7	同上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費	
8	課題研究発表	指定課題による研究発表	

教科書	新体系看護学7 「公衆衛生学」 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社
参考書	

授業科目名	臨床検査・画像診断学	単位認定者	小林 功
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、病院見学
科目の目的	多くの病気の正確な診断に、臨床検査・画像診断学は欠かせないものとなっている。特に、生体検査として、X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学（SPECT、PET）など多くの画像診断法が開発され、発展している。画像により正常解剖の理解が深まるし、画像検査により病気の発生とともに、解剖学的異常、生体内の変化を目で見ることができるようになった。一方、血液、尿・便、喀痰等の検体検査の測定法も進歩し、臨床診断に大いに寄与している現状である。本科目を学習することにより正常解剖・生理学を分かりやすく理解するとともに、実際に病気の診断に臨床検査・画像診断がどのように利用されているかを知ることを目的とする。
学習到達目標	1. 血液検査など検体検査で何が判るか理解する。 2. 理学療法士として、臨床検査の重要性を十分把握する。 3. X線、CT、MRI、超音波検査（US）、核医学検査（SPECT）・PETの原理を習得する。 4. 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。 5. 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。
関連科目	関連し合う教養科目 - 情報処理、生物学基礎、化学基礎、物理学基礎 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 解剖学、生物学、生化学、病理学、薬理学、内科学、臨床医学特殊講義、整形外科学、臨床神経学、小児科学 この科目が基盤となる専門科目 - 運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、物理療法学、スポーツ障害理学療法学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	臨床検査学総論	臨床検査の必要性	専門基礎分野 ・人体の構造と機能及び心身の発達
2	血液生化学検査(1)	血液検査の種類と実際	1.解剖学 B.骨格系 a)骨の構造と分類 b)関節の構造と分類 c)各部の骨・靭帯・関節
3	血液生化学検査(2)	血液検査の種類と実際	D.神経系 a)中枢神経系
4	尿・便・喀痰等	一般検査の概要	E.脈管系 a)心臓 b)動脈系 c)静脈系
5	生体検査(特に心電図など)	心電図・肺機能検査・脳波等などの測定の意義	F.内臓諸器官 a)消化器 b)呼吸器 c)泌尿・生殖器 d)内分泌腺
6	画像診断総論	画像診断の種類 画像診断の役割 それぞれの長所と限界	G.感覚器 H.体表解剖
7	X線検査、正常解剖画像	X線診断の原理、造影剤、マンモグラフィ	I.断面解剖 a)中枢神経系 b)筋・骨格・末梢神経系 ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
8	エックス線CT	CTの原理、CTの正常解剖画像、CTの臨床的有用性	3.臨床医学大要(概論) A.一般臨床医学 e)画像検査
9	核医学・PET	放射性同位元素(RI)とは、機能画像、SPECT、PETの原理と臨床応用	D.整形外科学 a)骨関節の構造と生理 d)整形外科的検査法
10	MRI	MRIの原理、MRIの臨床的有用性、MRIの正常解剖像	E.臨床神経学 a)脳・神経の構造と生理 c)神経学的症候と診断 f)脳血管障害 g)外傷性脳損傷 i)脱髄疾患・変性疾患 k)脊髄疾患
11	脳・脊髄	脳血管障害、脳腫瘍、認知症(痴呆) 椎間板ヘルニアの画像診断	専門分野 理学療法評価学
12	骨、関節、筋肉	骨折、骨・軟部腫瘍、靭帯損傷の画像診断	2.基本的評価法 A.評価の過程と方法 1)呼吸・循環・代謝機能検査
13	病院見学(群馬大学附属病院)	群馬大学医学部附属病院を見学。CT、MRI、核医学、PET、放射線治療の現場を知る。	3.障害別評価法 A.障害領域の評価法 a)整形外科領域 b)神経内科領域 c)脳外科領域 d)小児科領域 e)内科領域 f)外科領域 g)産科領域 h)スポーツ傷害と外傷 i)口腔・嚥下機能
14	上記と同じ	上記と同じ	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
15	まとめ	まとめ	

教科書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」 大久保昭行 編 (医学書院) プリントによる
参考書	「臨床検査ガイド 2007~2008」 Medical Practice 編 (文光堂) 「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」 稲本一夫 別府慎太郎 編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション診断学 (下) リハビリテーション医学全書 -3」 千野直一 編 (医歯薬出版) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス 頭部・頸部・脊柱・関節」 町田徹 監訳 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス 胸部・腹部・骨盤」 町田徹 監訳 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「レントゲン画像解剖ポケットアトラス」 町田徹 監訳 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

授業科目名	臨床医学特殊講義	単位認定者	小林 功
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必 修

指導方法	講義を中心とする。
科目の目的	理学療法士として必要な病態（特に外科領域）を学習する。
学習到達目標	理学療法士として各種疾患についての病態を把握する。
関連科目	解剖学 ・ 、生理学 ・ 、整形外科学を含む各臨床科目
成績評価方法	定期試験（筆記）

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	理学療法士としての各種病態の概論	各種病態における理学療法士の役割について考察する。	
2	生体の反応と臓器障害	生体・臓器に損傷が及ぼす反応を理解する。	
3	外科的診断法	代表的な外科疾患の診断法及び処置について学ぶ。	
4	滅菌法・消毒法	無菌法の意義と実践について理解する。	
5	救急疾患	ショックを含む救急疾患の概要を習得する。	
6	損傷（創傷・熱傷等）	生体にとって損傷の意義と対処法について学習する。	
7	感染症学	感染症の病態と対策を概略する。	
8	腫瘍学	腫瘍の概要を把握し、臨床現場を理解する。	
9	整形外科領域	整形外科領域における疾患を理解する。	
10	耳鼻咽喉科領域	耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。	
11	泌尿器科領域	泌尿器科領域における疾患を理解する。	
12	産婦人科領域	産婦人科領域における疾患を理解する。	
13	分子生物学、	最新の動向について学習する。	
14	臓器移植	最新の動向について学習する。	
15	まとめ	講義内容の基礎的実践的知識を整理する。	

教科書	プリントを使用する。
参考書	標準外科学（医学書院）、標準外科学（医学書院）

授業科目名	内 科 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	臨床医学の中で内科学は、すべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病態生理、診断、治療をしっかり学ぶ事は、理学療法士にとって臨床の現場で患者さんを理解する上で、重要である。
学 習 到 達 目 標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。 国試に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応する。
関 連 科 目	解剖学 ・ 病理学 生理学 ・
成 績 評 価 方 法	試験にて評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概論 1		3. 臨床医学大要 B.内科学 a. 症候学と感染症 b. 診断学 c. 治療学総論 d. 感染症 e. 膠原病、アレルギー・自己免疫疾患 f. 呼吸器疾患 g. 循環器疾患 h. 消化器疾患 i. 代謝内分泌疾患 j. 血液疾患 k. 腎疾患 l. 中毒、物理的・環境要因による疾患
2	概論 2		
3	消化器疾患 1		
4	消化器疾患 2		
5	消化器疾患 3		
6	呼吸器疾患 1		
7	呼吸器疾患 2		
8	呼吸器疾患 3		
9	循環器疾患 1		
10	循環器疾患 2		
11	循環器疾患 3		
12	内分泌・代謝疾患 1		
13	内分泌・代謝疾患 2		
14	内分泌・代謝疾患 3		
15	まとめ		

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	整形外科学	単位認定者	橋本俊英
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	理学療法に必要な筋骨格系の基礎知識、および整形外科疾患の特性と対応について、テキストと資料を用いて系統的に解説する。
科目の目的	整形外科疾患を有する患者の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学習到達目標	1. 骨・関節・筋肉および神経・血管の構造と機能を理解する。 2. 整形外科疾患の病態、症状、治療法、および理学療法を行う際の合併症とその対策について理解する。 3. 整形外科疾患の理学療法と、患者をとりまく家族・地域・社会との関連を理解する。
関連科目	臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学、装具学
成績評価方法	定期試験に授業参加態度を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	整形外科総論1	整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能)	3.臨床医学大要(概論)---D 整形外科学
2	整形外科総論2	運動器の評価および検査法、整形外科疾患の治療法	a. 骨関節の構造と生理
3	整形外科疾病論1	炎症性疾患	b. 骨関節の病態生理
4	整形外科疾病論2	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患	c. 整形外科的症候と診断
5	整形外科疾病論3	先天性骨・関節性疾患	d. 整形外科的検査法
6	整形外科疾病論4	脊椎の疾患、脊椎・脊髄損傷	e. 保存的療法(牽引療法を含む)
7	整形外科疾病論5	末梢神経の疾患・外傷	f. 手術的療法(一般)
8	整形外科疾病論6	骨折総論、体幹の骨折	g. 骨関節の感染症
9	整形外科疾病論7	上肢の骨折・脱臼	h. 関節リウマチとその類縁疾患
10	整形外科疾病論8	下肢の骨折・脱臼	i. 変形性関節症
11	整形外科疾病論9	腱・靭帯の損傷、スポーツ外傷	j. 末梢循環障害
12	整形外科疾病論10	循環障害と壊死性疾患	k. 阻血性壊死
13	整形外科疾病論11	骨・軟部腫瘍、神経筋疾患	l. 先天異常および系統疾患
14	整形外科疾病論12	熱傷、褥創、切断	m. 骨・軟部腫瘍
15	まとめ	まとめ	n. 代謝性疾患
			o. 外傷と骨折
			p. 脊髄・脊椎疾患および損傷
			q. 末梢神経損傷(腕神経叢を含む)
			r. スポーツ障害と外傷

教科書	「標準整形外科学」(医学書院) 「整形外科手術後療法ハンドブック」(南江堂)
参考書	講義中に適宜示す。

授業科目名	整形外科学	単位認定者	橋本俊英
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	部位別整形外科疾患の特性と対応について、症例を提示し、テキストと資料を用いて解説する。
科目の目的	整形外科疾患を有する患者の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学習到達目標	1. 脊柱・四肢の各部位別に、整形外科疾患の病態生理、症状、検査、診断について理解する。 2. 代表的疾患については、初期治療からリハビリテーションの実際についての知識を整理し、合併症とその対応策について必要な知識を習得する。
関連科目	臨床心理学、生命倫理、病理学・解剖学、運動生理学、老年医学、救急・免疫・感染症学、スポーツ医学、義肢学・装具学
成績評価方法	定期試験に授業参加態度を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	脊柱の疾患 1	頸椎椎間板ヘルニア、頸椎後縦靭帯骨化症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	3.臨床医学大要(概論)---D 整形外科学 a. 骨関節の構造と生理 b. 骨関節の病態生理 c. 整形外科的症候と診断 d. 整形外科的検査法 e. 保存的療法(牽引療法を含む) f. 手術的療法(一般) g. 骨関節の感染症 h. 関節リウマチとその類縁疾患 i. 変形性関節症 j. 末梢循環障害 k. 阻血性壊死 l. 先天異常および系統疾患 m. 骨・軟部腫瘍 n. 代謝性疾患 o. 外傷と骨折 p. 脊髄・脊椎疾患および損傷 q. 末梢神経損傷(腕神経叢を含む) r. スポーツ障害と外傷
2	脊柱の疾患 2	頸髄損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
3	脊柱の疾患 3	腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
4	脊柱の疾患 4	胸腰椎損傷による脊髄・馬尾損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
5	上肢の疾患 1	肩関節、上腕、肘関節、手関節、手指などの疾患・外傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
6	上肢の疾患 2		
7	上肢の疾患 3		
8	上肢の疾患 4		
9	下肢の疾患 1	股関節、大腿骨、膝関節、足関節、足部などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
10	下肢の疾患 2		
11	下肢の疾患 3		
12	下肢の疾患 4		
13	症例提示(演習)1	知識の整理・復習	
14	症例提示(演習)2		
15	まとめ	まとめ	

教科書	「標準整形外科学」(医学書院) 「整形外科手術後療法ハンドブック」(南江堂)
参考書	講義中に適宜示す。

授業科目名	臨床神経学（神経内科学）	単位認定者	小林 功
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	1 単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法士の基盤である神経系について理解し、実践に役立つ知識を身につける。
学習到達目標	各神経疾患の病態生理・特徴的な症候を学ぶ
関連科目	臨床神経学（小児神経学・脳神経外科学）
成績評価方法	試験のみ。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	疾患各論 1	脳血管障害 1 総論	. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 3. 臨床医学大要（概論） E. 臨床神経学 f) 脳血管障害 h) 感染症 i) 脱髄疾患・変性疾患 j) 先天異常 k) 脊髄疾患 l) 末梢神経疾患 m) 自律神経疾患 n) 筋疾患
2	" 2	" 2 脳出血	
3	" 3	" 3 脳梗塞	
4	" 4	" 4 治療	
5	神経免疫学	感染・炎症・腫瘍	
6	末梢神経疾患	感染・炎症・脱髄疾患各論 脊髄・末梢神経・脱髄	
7	疾患各論 1	変性疾患 1 パーキンソン病	
8	" 2	" 2 パーキンソン症候群（MSA、CBD、DLB）	
9	" 3	" 3 アルツハイマー病	
10	" 4	" 4 ピック病、前頭側頭葉型認知症	
11	" 5	" 5 ハンチントン病、脊髄小脳変性症	
12	" 6	" 6 運動ニューロン病	
13	" 7	筋疾患	
14	" 8	進行性筋ジストロフィー。ミトコンドリア脳筋症 一般内科疾患にともなう神経疾患	
15	まとめ	ビタミン、中毒、代謝異常	

教科書	「神経内科学テキスト」江藤文夫（南江堂）
参考書	

授 業 科 目 名	小 児 科 学	単 位 認 定 者	井 埜 利 博
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書に沿って指導を進め、パワーポイントにより、症例の写真を提示し学習する。ときに小レポート課題を出し、クラスで発表させ授業に参加している意識を持たせる。
科 目 の 目 的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。
関 連 科 目	解剖学 生理学 人間発達学 他の臨床医学
成 績 評 価 方 法	授業における態度（とくに出席について）および試験成績によって評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ	3.臨床医学大要（概論）
2	小児科学概論（つづき）		G.小児科学
3	診断と治療の概要		a. 小児の成長と発達
4	新生児・未熟児疾患		b. 小児保健と小児栄養
5	先天異常、先天代謝異常		c. 小児科学的症候と診断
6	神経・筋・骨等疾患	リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	d. 小児科学的検査法
7	神経・筋・骨等疾患（つづき）		e. 治療法一般
8	循環器疾患、呼吸器疾患		f. 先天異常及び系統疾患
9	感染症、消化器疾患		j. 脳・神経・筋疾患
10	内分泌・代謝疾患		k. てんかん
11	血液疾患		n. 循環器疾患 m. 呼吸器疾患
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病		h. 感染症 o. 消化器疾患
13	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患		g. 代謝・内分泌性疾患
14	心身症、神経症など		p. 血液・造血器疾患
15	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	i. 免疫・アレルギー疾患
	まとめ		r. 泌尿器疾患
			l. 知的障害

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」富田 豊編（医学書院）2004.
参 考 書	「小児科学 第7版」中山健太郎、矢田純一編（文光堂）2004. 「NEW小児科学 改訂版」清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井真理子編（南江堂）2003.

授業科目名	リハビリテーション医学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義。そのつど、講義内容に関連したプリントを配布する。
科目の目的	神経系、筋・骨・関節系、呼吸器系、循環器系などの機能障害と、これに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対するリハビリテーションを学習する。具体的には以下の四側面を学ぶ。1) 障害を、機能障害と能力低下、社会的不利、環境因子から多面的に評価する方法を学ぶ。2) 廃用症候群を含む種々の機能障害の病態生理と回復について学ぶ。3) 治療理論の概略を学ぶ。4) 種々の機能障害に関するリハビリテーション医学の臨床の概略について学ぶ。
学習到達目標	リハビリを支える医学的な側面に関して、ある程度の理解に到達すること。
関連科目	内科学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	障害の評価	医学的情報の評価、機能障害の評価、能力低下(活動制限)の評価、社会的不利の評価、環境因子の評価、	4.リハビリテーション医学 A. 障害の評価
2	機能障害の病態生理と回復1	筋肉・柔部組織損傷、骨・関節損傷、末梢神経損傷、	B. 機能障害の病態生理と回復
3	機能障害の病態生理と回復2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷、高次脳機能障害、	B. 機能障害の病態生理と回復
4	機能障害の病態生理と回復3	脊髄の障害、	B. 機能障害の病態生理と回復
5	廃用症候群などの病態生理	痛み、呼吸機能、心機能、嚥下と口腔衛生、排泄、	B. 機能障害の病態生理と回復
6	治療理論1	発生機序、廃用症状、誤用と過用、	C. 廃用症候群などの病態生理
7	治療理論2	関節可動域、筋力増強、中枢神経障害、	D. 治療理論
8	リハビリテーション医学の臨床1	体力と持久力、バイオフィードバック、運動負荷とリスク管理、	D. 治療理論
9	リハビリテーション医学の臨床2	脳血管障害、外傷性脳損傷、	E. リハビリテーション医学の臨床 a. 脳血管障害 b. 外傷性脳損傷、
10	リハビリテーション医学の臨床3	脊髄損傷、脳性麻痺、末梢血管疾患、	c. 脊髄損傷 d. 脳性麻痺 e. 末梢血管疾患
11	リハビリテーション医学の臨床4	切断と義肢、末梢神経麻痺、変性疾患、	f. 切断と義肢 g. 末梢神経麻痺 h. 変性疾患
12	リハビリテーション医学の臨床5	筋疾患、慢性関節リウマチ、その他の膠原病、	i. 筋疾患 j. 慢性関節リウマチ・その他の膠原病
13	リハビリテーション医学の臨床6	骨関節の外傷および疾患、呼吸器疾患、	k. 骨関節の外傷および疾患 l. 呼吸器疾患、
14	リハビリテーション医学の臨床7	循環器疾患、糖尿病、血液疾患、	m. 循環器疾患 n. 糖尿病 o. 血液疾患
15	まとめ	悪性腫瘍、視覚障害、聴覚・平衡障害、高齢者、	p. 悪性腫瘍 q. 視覚障害 r. 聴覚・平衡障害 s. 高齢者

教科書	
参考書	「入門 リハビリテーション医学」中村隆一監修(医歯薬出版株式会社)

授 業 科 目 名	老 年 医 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	理学療法士として高齢者とどのように接してゆくか、何が出来るかを考える一助とする。
学 習 到 達 目 標	リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。具体的には最終試験での受講者の過半数の者の正解率が75%に到ること。
関 連 科 目	病理学
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化	3. 臨床医学大要 (概論) C. 老年医学 a. 加齢による病態生理変化 b. 老年疾患・障害の特徴
2	運動機能と精神心理面の加齢変化 高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群	高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴 老年症候群の概念、代表的な老年症候群	b. 老年疾患・障害の特徴
3	循環器疾患、呼吸器疾患	循環器疾患：うつ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎	B. 内科学 b. 循環器疾患 f. 呼吸器疾患
4	消化器疾患 骨運動器疾患 精神神経疾患	高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患 骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ 精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害	h. 消化器疾患 D. 整形外科 i. 変形性関節症、h. 慢性関節リウマチ E. 臨床神経学 l. 末梢神経疾患 m. 自律神経疾患
5	内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患 腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患 感染症、高齢者との接し方	糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患 高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかわり	B. 内科学 i. 代謝・内分泌性疾患 j. 血液疾患 k. 腎疾患 d. 感染症
6	高齢者の機能評価 高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価 高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態	C. 老年医学 a. 加齢による病態生理変化 c. 高齢者の治療とケアの特徴
7	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 高齢者のリハビリテーション	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健 高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法	c. 高齢者の治療とケアの特徴 c. 高齢者の治療とケアの特徴
8	まとめ	まとめ	

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	実習および講義
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学 習 到 達 目 標	1年次に履修した心理学，臨床心理学をベースに，実際に医療機関や福祉施設などで治療に従事する際に必要な，理学療法士の知識・技術以外の治療的対人コミュニケーションの知識や技術を習得することが目標である（1年次に履修した心理学，臨床心理学をきちんと理解していることが前提である）。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	期末レポート（30%），小レポート（20%），プレゼンテーション評価（20%），出席（30%）を総合して評価する。なお，第1回の講義時にプレゼンテーションのグループ分けを行うので，第1回の講義に出席していない学生の履修は認めない。また，ロールプレイ，グループワークなどの実習，およびパワーポイントによるプレゼンテーションを行うため，意欲的な取り組みが求められるので，留意すること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	・ カウンセリングの理論	1. 保健医療・福祉・教育領域における理学療法士の役割とカウンセリング	2 臨床心理学 D 心理療法およびカウンセリング 3 臨床医学大要（概論） F 精神医学 e 精神療法 g コンサルテーション・リエゾン精神医学 f 精神科リハビリテーション、社会復帰
2	・ 保健医療に生かす	1. カウンセリングの方法と基本技法（1）【実習】	
3	・ カウンセリング技法の習得	2. カウンセリングの方法と基本技法（2）【実習】	
4		3. カウンセリングの方法と基本技法（3）【実習】	
5		4. カウンセリングの方法と基本技法（4）【実習】	
6		5. 自己理解と他者理解【グループワーク】	
7	・ 発達段階とカウンセリング	1. 身体障害・知的障害・発達障害とは	
8		2. 障害を受容すること	
9		3. ストレスによる疾患（うつ病）	
10		4. 統合失調症と精神科リハビリテーション	
11		5. 認知症とリハビリテーション	
12		6. ターミナルケア	
13	・ チーム医療に活かす心理学	1. がん医療【学生によるプレゼンテーション】	
14		2. 心臓疾患【学生によるプレゼンテーション】	
		3. 糖尿病【学生によるプレゼンテーション】	
		4. 小児医療【学生によるプレゼンテーション】	
		5. アレルギー疾患【学生によるプレゼンテーション】	
		6. 脳外傷・脳血管障害【学生によるプレゼンテーション】	
		7. 生活習慣病予防【学生によるプレゼンテーション】	
		8. 高齢者医療【学生によるプレゼンテーション】	
15	まとめ	期末レポートの作成	

教 科 書	「MBTI®質問紙(FORM M 手採点版)」JPP Inc. 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	「医療心理学の新展開」鈴木伸一 編著（北大路書房）2008年 「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」町田いづみ（照林社）2006年 「独習 実践カウンセリング・ワークブック」福山清蔵（日本精神・技術研究所）1999年

授業科目名	リハビリテーション概論	単位認定者	松澤 正
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成 績 評 価 方 法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	リハビリテーションの定義、理念、歴史		-2.リハビリテーション概論
2	障害論		A.総論
3	障害者の心理		a. リハビリテーションの定義・歴史 b. ノーマライゼーション c. 自立生活 d. QOL
4	リハビリテーションの構成		B. 障害の概念と分類
5	医学的リハビリテーション		C. 障害と心理
6	チーム医療とリハビリテーション医療の進め方		D. リハビリテーションの進め方
7	地域リハビリテーション		a. リハビリテーション関連職種とその役割 b. チームアプローチ c. 評価会議とゴール設定
8	リハビリテーションにおける評価学		E. リハビリテーションの諸相
9	治療学、症例		a. 医学的リハビリテーション b. 教育的リハビリテーション c. 職業的リハビリテーション d. 社会的リハビリテーション e. 地域リハビリテーション
10	教育的リハビリテーション		
11	職業的リハビリテーション		
12	社会的リハビリテーション		F. 保健医療福祉制度
13	社会的リハビリテーション		G. 関係法規
14	寝たきり老人のリハビリテーション		
15	まとめ		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎理論、特に臨床心理検査法と心理療法について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得すると同時に、理学療法士国家試験に合格しうる実力を身につけることが目標である。
関 連 科 目	すべての科目と関連（前期に履修する心理学の内容を基に講義を行い、コミュニケーション（相談）実技については2年次に開講されるカウンセリングで扱う予定である）
成 績 評 価 方 法	期末試験（50%）、第4回と第8回に実施予定の小テスト（それぞれ10%）、小レポート2本（それぞれ15%）を総合して評価する（出席が学則の規定に満たない学生は期末試験の受験資格を喪失するので、きとんと出席すること）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3	・臨床心理学とは（基礎理論、正常および異常心理）	1. 臨床心理学とは？ - 定義と歴史 - 2. 問題行動の意味 - 正常と異常 - 3. 発達段階と心理的問題 4. 医療領域における臨床心理学的視点 - 転移・逆転移と防衛機制 -	2 臨床心理学 A 基礎理論 B 正常および異常心理 C 臨床心理検査法 D 心理療法およびカウンセリング
4 5 6 7	・臨床心理アセスメント（臨床心理検査法）	1. 心理アセスメントとは？ 1-1. 行動観察によるアセスメント 1-2. 面接法によるアセスメント 1-3. 心理検査によるアセスメント 【実習】血液型性格診断 2. 知能検査によるアセスメント 2-1. ビネー式知能検査 2-2. ウェクスラー式知能検査 2-3. その他の知能検査（認知症スクリーニング検査を含む） 【実習】認知症スクリーニング検査 3. 心理検査によるアセスメント(1) 【実習】内田クレペリン検査 4. 心理検査によるアセスメント(2) 【実習】YG性格検査	
8 9 10 11 12 13 14	・心理療法の理論と実際	1. 精神分析的な心理療法 2. 分析心理学的な心理療法 【実習】箱庭療法 3. クライアント中心療法 4. 行動療法・認知行動療法 5. 家族療法、短期療法 6. グループ・アプローチ 【実習】回想法 7. チーム医療、リハビリテーションに活かす心理療法・カウンセリングの知識	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山祐嗣・山口素子・小林知博 編著（北大路書房）2009年 1年次前期の「心理学」で使用したものと同一のもので、既に持っている場合は購入の必要はありません 「内田クレペリン検査（検査用紙および曲線類型判定）」（日本文化科学社） 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	「医療心理学の新展開」鈴木伸一 編著（北大路書房）2008年 「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」町田いづみ（照林社）2006年

授業科目名	医療統計学	単位認定者	木村 朗
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	基礎的概念の説明と実践的課題の演習を基に学習させる。各自ノート PC
科目の目的	医療・保健の現場に必要な判断を導くためにデータを活用する力の基礎を養うことが求められる。この基礎力とは個人毎の情報だけでは明らかにならない現象に対して集団の統計・推計・確率を利用することで原因となる要因を推定する能力である。この力を発展させ、根拠のある医療 (EBM) の基本的実践に資する統計学的な考え方を追求しながら、コンピューターを使用して実践的能力を身につけることが目的である。
学習到達目標	医療統計の実践的課題について統計ソフトウェアを利用して、複雑な手続きを経ずとも正しく統計解析の遂行と解釈ができるリテラシー (実際のソフトウェアの操作能力と概念を用いる能力) の獲得
関連科目	情報処理 ・ 情報処理 、生活の中の数学、公衆衛生学、理学療法研究論
成績評価方法	課題遂行能力テスト

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	確率と統計、医療	日常生活と医療における統計を基に確率と統計を考える (事前学習用課題呈示)	
2	統計ソフト " JSTAT "	統計ソフトと、データセッティング (事前学習用課題呈示)	
3	データの性質と医療	医療・保健におけるデータの見方・加工の仕方 (事前学習用課題呈示)	
4	医療データと代表値	医療・リハビリテーションで頻出のデータの特徴 (事前学習用課題呈示)	
5	探索的統計と要約	統計学の基礎 (事前学習用課題呈示)	
6	ヒストグラム	基礎的統計学とグラフの活用 (事前学習用課題呈示)	
7	t 分布と医療データ	JSTAT (もしくは R) を用いた平均値の解析 (事前学習用課題呈示)	
8	f 分布と医療データ	JSTAT を用いた分散の解析 (事前学習用課題呈示)	
9	カイニ乗分布	JSTAT を用いたカテゴリーデータの解析 (事前学習用課題呈示)	
10	相関係数と回帰式	JSTAT を用いた相関係数と回帰式の解析 (事前学習用課題呈示)	
11	サポートベクター	新しい統計手法 (データマイニング) (事前学習用課題呈示)	
12	因子分析	多変量解析の経験 (事前学習用課題呈示)	
13	横断研究とコホート	EBM に必要な研究デザインと解釈 (事前学習用課題呈示)	
14	生存分析	保健事象に有用な解析方法の経験 (事前学習用課題呈示)	
15	まとめ	これまで学んだ手法の整理等	

教科書	使用しない
参考書	エクセル活用コメディカル統計テキスト, 宮城重二著, 医歯薬出版 / 各自ノート PC 持参

授業科目名	社会福祉・地域サービス論	単位認定者	金谷春代
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学習到達目標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関連科目	地域社会学
成績評価方法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	2 リハビリテーション概論 A. 総論(理念) B. 障害の概念と分類 C. 障害と心理 D. リハビリテーションの進め方 E. リハビリテーションの諸相 F. 保健医療福祉制度 a. 保健・医療制度 b. 社会保険制度 c. 社会福祉と公的扶助制度 d. 公的介護保険制度 G. 関係法規 c. 福祉関係法規 1) 児童福祉法 2) 身体障害者福祉法 3) 知的障害者福祉法 4) 老人福祉法
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について	
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について	
4	地域福祉の内容と展開		
5	サービスの実際	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する	
6	サービスの実際		
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて	
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。	
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。	
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方	
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」	
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。	
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。	
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的	
15	まとめ		

教科書	
参考書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授 業 科 目 名	障害者スポーツ・レクリエーション論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	障害者スポーツは、テキストの理論編を中心とした講義を指導する。実践編として車椅子バスケットボールの講義を予定している。レクリエーション論は、リハビリテーションの臨床場面で使われている障害に応じた代表的なものをグループで演習する。
科 目 の 目 的	本講義では、障害者スポーツ理論に関する健康、運動能力、リハビリテーションなどの側面が心身に及ぼす影響について学習する。障害に適応するレクリエーション活動を立案し、発表することができる。
学 習 到 達 目 標	テキストの理論編の講義内容がおおむね理解できること。 グループワークにより、障害に適応するレクリエーションを発表することができる。
関 連 科 目	運動生理学、健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法	出席、定期試験、グループ発表により総合的に判断する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	アダプティド・スポーツとは何か	
2	講義	健康とアダプティド・スポーツ	
3	講義	健康とアダプティド・スポーツ	
4	講義	体力、運動能力向上とアダプティド・スポーツ	
5	講義	体力、運動能力向上とアダプティド・スポーツ	
6	講義	アダプティド・スポーツとリハビリテーション	
7	講義	アダプティド・スポーツとリハビリテーション	
8	講義	車いすバスケットボール	
9	講義	レクリエーションのガイダンス	
10	講義	レクリエーションの範囲と種類	
11	講義	集団の意義、立案と発表への展開	
12	講義	グループワーク	
13	講義	グループワーク	
14	講義	グループワーク	
15	講義	グループワーク	

教 科 書	「アダプテッド・スポーツの科学」(市村出版)
参 考 書	レクリエーション(三輪書店) パリアフリースポーツ(サンウェイ出版)

授業科目名	理学療法概論	単位認定者	浅田春美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義14コマ・学外実習(施設見学)1コマ
科目の目的	この科目では、「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目指し、講義への参加をジャーナルとしてまとめ自身の振り返りを行う。またグループワークや障害体験、理学療法体験など演習、施設見学を取り入れて理解を深める。
学習到達目標	1. 理学療法の定義、対象、業務、役割など理学療法の基本を説明できる。 2. 理学療法技術の一部を体験する事から、今後の学習に必要なことをイメージできる。 3. 施設見学を通しリハビリテーションの流れを確認し、理学療法(士)をイメージできる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができる。
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか
成績評価方法	ジャーナル(毎回の講義の振り返り)の提出、出席状況や演習参加態度など加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション	講義概要 理学療法士を目指した動機 G.W.	<ul style="list-style-type: none"> - 1. 理学療法概念 A. 定義 B. 歴史 - 1. 理学療法概念 C. 理念 a. 保健・医療・福祉における理学療法の考え方 - 1. 理学療法概念 D. 対象と目的 a. 保健・医療・福祉における理学療法 b. 障害の捉え方(障害分類) - 4. B. 法規 a. 理学療法士及び作業療法士法 b. 関連法規 - 4. 医療専門職と倫理 A. 倫理 a. ノーマライゼーション b. インフォームド・コンセント - 4. C. 管理 a. 理学療法部門の管理運営 b. チームワーク
2	理学療法概念	理学療法の定義・目的・理念・歴史	
3		理学療法対象の理解 「障害とは」(障害体験)	
4		障害体験のまとめ	
5		障害を持った方の講演	
6	理学療法の流れ	リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ 各種理学療法技術の歴史	
7		理学療法評価	
8		理学療法技術体系 (体験)	
9		理学療法技術体系 (体験)	
10	職域と役割	医療・保健・福祉分野における理学療法	
11	理学療法士の適正	グループワーク	
12		グループワーク	
13	理学療法士の倫理	報告とまとめ	
14	理学療法の実際	施設見学 別日程(後日掲示)で実施	
15	"	"	

教科書	理学療法テキスト 「理学療法概論第2版」細田多穂, 柳澤健編(協同医書出版社)
参考書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲(医歯薬出版株式会社) 「目でみるリハビリテーション医学」上田 敏(東京大学出版)

授業科目名	基礎理学療法学	単位認定者	江口勝彦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	リハビリテーション医療は疾病や障害を対象とするのではなく、疾病・障害を持った人を対象とするといわれるが、理学療法という治療手段が対象とする本質は、器官・組織の病理的变化や病態生理的变化である。各種障害の発生機序と回復過程の理解、さらには「病理-機能形態障害-機能的制限-能力の障害-社会参加の制限と不利」という障害過程、障害構造を分析することを通じ、現象として目に見える障害から、その本質(病理的变化)を類推し、理学療法という臨床技術の本質を理解する。
学習到達目標	<p><一般目標> 本講座の到達目標は、理学療法の基盤を理解し、理学療法専門科目を学ぶための準備状態確立させることである。理学療法の対象領域・障害構造・基本的用語ならびに専門用語の調べ方などについて教授する。さらに、理学療法の対象と治療手段について、その基礎理論の一部を教授した上で、自ら学習する過程を持ち、学習方法を涵養する。</p> <p>本講座開始時と終了時で自己の理学療法感の比較を通じ、より具体的なイメージを持って進級させたい。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法が対象とする領域について説明できる。 2. 障害過程・障害構造について、Nagiのモデルを使い、説明できる。 3. 基本的用語の理解と、専門用語の確認方法を修得する。 4. 代表的な疾患・障害について理学療法の考え方と治療戦略の概要を知る。
関連科目	専門基礎科目群：解剖学・生理学・運動学・運動生理学、リハビリテーション医学 専門科目群：運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学
成績評価方法	適宜、形成適評価として前回の講義などに関するミニクイズを行う。 演習中心であるため、グループワークの参加度、貢献度、発表などを総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	コースリインテグレーション 総論1	科目の概要・講義スケジュール 予習項目の提示 私の理学療法 1	基礎理学療法学 3. 理学療法の基礎理論。
2	総論2	私の理学療法 2	A. 関節可動域運動の理論 a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限(拘縮・強直を含む)
3	総論3	理学療法の対象領域	B. 神経・筋機能の理論 a. 中枢神経系 (覚醒・促進、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮) b. 末梢神経系 (伝導、再生、運動麻痺など) c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩 e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮
4	総論4	ミニクイズ1 障害構造・障害過程と理学療法、リハビリテーション	C. 運動制御・運動学習の理論 a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック
5	ターミノロジー1	ミニクイズ2 ターミノロジーA to Z1	D. 痛みの理論 a. 評価 b. メカニズム c. 病態
6	ターミノロジー2	ミニクイズ3 ターミノロジーA to Z2	
7	ターミノロジー3	ミニクイズ4 ターミノロジーA to Z3	
8	関節可動域制限1	ミニクイズ 関節可動域制限の分類・発生機序・病態生理	
9	関節可動域制限2 グループワーク	覗いてみよう！ 関節可動域制限に対する理学療法戦略 覗いてみよう！	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
10	関節可動域制限3 グループワーク	関節可動域制限に対する理学療法戦略	E. バイオメカニクス
11	運動制御障害1	ミニクイズ 運動制御障害の分類・発生機序・病態生理	
12	運動制御障害2 グループワーク	覗いてみよう！ 運動制御障害に対する理学療法戦略	
13	運動制御障害3 グループワーク	ミニクイズ 覗いてみよう！ 運動制御障害に対する理学療法戦略	
14	発表会	グループワークの成果をまとめ、発表	
15	発表会		

教科書	奈良 勲（編著）：理学療法概論．医歯薬出版 奈良 勲（監修）内山靖（編）：理学療法学事典．医学書院 初山 泰弘（監）：図解 自立支援のための患者ケア技術．医学書院
参考書	上田敏，千野直一，大川嗣雄（編）：リハビリテーション基礎医学，医学書院 服部一郎，他：リハビリテーション技術全書第2版，医学書院 理学療法科学学会編：理学療法概論 第4版（理学療法科学シリーズ），アイベック 上田 敏：目でみるリハビリテーション医学，東京大学出版 ほか

授業科目名	理学療法評価学	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義及び実技
科目の目的	理学療法評価の意義,目的,評価の過程を知ること.また,基本的事項である情報収集,問診,記録と形態計測および関節可動域測定ができるようになること.
学習到達目標	理学療法評価の意義,目的,評価の過程が言える.情報収集,問診の必要項目を挙げることができる.記録方法が言える.評価時に理学療法士が配慮すべき点を挙げることができる.学生同士で形態計測および関節可動域測定ができる.
関連科目	理学療法概論,表面解剖学と触診法,理学療法評価学演習,運動器系理学療法評価・治療学,神経系理学療法評価・治療学,呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学,評価学実習,総合臨床実習,総合臨床実習
成績評価方法	筆記試験及び実技試験,小テスト,学習態度によって総合的に判定する.

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2	総論 1	講義の概要 意義・目的 評価の対象,評価の種類,評価の過程 評価の時期と目的	
3	総論 2	接遇・オリエンテーション インフォームド・コンセント 守秘義務,個人情報保護法	-2.理学療法の過程 A.評価 a.情報収集と分析 b.患者のニーズと問題点 B.治療計画 a.治療方針 b.目標の設定 c.目標達成の時期 d.治療計画の立案 C.治療の実施 a.治療手順の設定 b.治療記録・報告 D.効果判定 a.治療内容の妥当性 b.目標達成の評価
4	総論 3	評価環境・評価器具・評価時の注意点 情報収集(医学的情報・社会的情報) 病歴のとり方,面接,問診,観察	-1.理学療法評価の基本的理解 A.評価の時期と進め方 a.初期・中間・最終評価の意義・目的・手段 b.評価の手順 c.問題点の捉え方・統合と解釈
5	総論 4	記録 記録の4条件,記録内容,理学療法診療記録,POS,報告書	
6 7 8 9	各論 1-4	形態計測(1)講義 形態計測(2)実技 形態計測(3)実技 形態計測(4)実技	-2.基本的評価法 A.評価の過程と方法 c.四肢長・周径測定
10 11 12 13 14	各論 5-9	関節可動域測定(1)講義 関節可動域測定(2)講義 関節可動域測定(3)実技 関節可動域測定(4)実技 関節可動域測定(5)実技	-2.基本的評価法 A.評価の過程と方法 d.関節可動域測定
15	まとめ	総括	

教科書	「理学療法評価学第2版」松澤 正著(金原出版株式会社)
参考書	「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂,柳澤 健編(協同医書出版社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良 勲監修(医学書院) 「DVD series PT・OTのための測定評価1 ROM測定」福田 修監修(三輪書店) 「DVD series PT・OTのための測定評価2 形態測定・反射検査」福田 修監修(三輪書店)

授業科目名	理学療法評価学演習	単位認定者	浅田春美
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および実技
科目の目的	解剖学・運動学で学んだ知識を基に機能を再確認しながら、それらの検査方法の理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力評価として徒手筋力検査法(以下MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な理学療法検査・測定技術を再度確認し確実に習得することを目的とする。
学習到達目標	1. 理学療法記録や患者オリエンテーションの内容を説明することができる。 2. 筋力評価の目的・意義・代表的な測定方法を説明することができる。 3. MMTが実施できる(注意点や代償運動を説明できることを含む)。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を手際よく1人の人へ実施できる。
関連科目	解剖学・運動学・理学療法評価学、臨床推論演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか
成績評価方法	筆記試験および実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	理学療法評価 総論	理学療法記録 理学療法診療記録・POS・報告書の書き方など	-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 d. 関節可動域測定 e. 筋力・持久力測定
2	"	患者オリエンテーション インフォームドコンセント・守秘義務・個人情報保護法など	
3	理学療法評価 各論	筋力測定 <定義・目的・種類など> 機器を使用した筋力測定法含む	
4	"	徒手筋力測定法(MMT)の目的・意義・抵抗・注意点	
5	"	・徒手筋力測定の実際<肘関節>	
6	"	徒手筋力測定の実際<肩関節>	
7	"	徒手筋力測定の実際<肩甲帯>	
8	"	徒手筋力測定の実際<手関節・手指>	
9	実技テスト	実技テスト(ROM-T・MMTなど)	
10	理学療法評価 各論	徒手筋力測定の実際<股関節>	
11	"	徒手筋力測定の実際<股関節・膝関節>	
12	"	徒手筋力測定の実際<足関節>	
13	"	徒手筋力測定の実際<頸部・体幹>	
14	実技テスト	実技テスト(ROM-T・MMTなど)	
15	まとめ	まとめ	

教科書	「理学療法評価学 第2版」 「新・徒手筋力検査法 原著第8版」
参考書	「運動器疾患の評価」岩倉博光、栢森良二監訳(医歯薬出版株式会社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修(医学書院) その他：講義にて随時紹介します

授業科目名	運動療法総論	単位認定者	岡崎大資
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義(一部演習と実技実習を含む) 15コマ
科目の目的	本講座では、運動療法を行う前提として知っておかなければならない基礎知識を理解することを目的とする。具体的学習内容としては運動療法の概念と基礎、運動の種類、基本的な運動療法、特殊な運動療法などを学習する。
学習到達目標	本講座の到達目標は、運動療法の基礎知識を整理・理解し、より専門的な理学療法治療学(運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学)を学ぶための基礎的学習能力を確立させることである。
関連科目	専門基礎科目群:解剖学・生理学・運動学・運動生理学、リハビリテーション医学 専門科目群:運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、高齢者理学療法学、スポーツ傷害理学療法学
成績評価方法	定期試験に加え、小テスト・課題レポート・授業参加度などを加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			理学療法士	
1	オリエンテーション 運動療法の概念	今後の講義予定 運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題	・基礎理学療法学 3. 理学療法の基礎理論	
2	理学療法の基礎	関節の構造と運動、関節運動の制限	F. 関節可動域運動の理論 a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限(拘縮・強直を含む)	
3	"	随意運動のメカニズム 1	G. 神経・筋機能の理論 a. 中枢神経系 (覚醒・促進、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮) b. 末梢神経系 (伝導、再生、運動麻痺など) c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩 e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮	
4	"	随意運動のメカニズム 2		
5	"	運動制御と運動学習 1		
6	"	運動制御と運動学習 1		
7	基本的な運動療法	全身調節運動、リラクゼーション		
8	"	運動の種類、関節可動域運動		
9	"	関節可動域運動の実際		
10	"	筋力増強運動		
11	"	持久力増強運動		
12	"	協調性運動		
13	"	バランスの獲得・改善		
14	"	基本動作の獲得・改善		
15	まとめ	まとめ		
				H. 運動制御・運動学習の理論 a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック
				I. 痛みの理論 a. 評価 b. メカニズム c. 病態
			J. バイオメカニクス	

教科書	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論」吉尾雅春 編集(医学書院)
参考書	「運動療法」全国PT・OT学校養成施設連絡協議会 理学療法部会九州ブロック会編(神陵文庫) 「運動療法学」柳沢健編集(金原出版) 「理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 理学療法の基礎と評価」細田多穂・柳澤健 編集(協同医学出版社)

授業科目名	運動器系理学療法評価・治療学	単位認定者	城下貴司
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	理学療法の対象となる障害のうち、最も多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)の疾患・障害の理学療法について、評価・治療の総論を学ぶ。すなわち運動器系疾患・障害の特異的検査・測定方法、日整会の判定基準、骨関節の画像診断読影などの評価学、運動器系理学療法治療学の総論を学ぶ。
学習到達目標	詳細は、開講時に示す。
関連科目	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ・運動器系理学療法評価・治療学演習
成績評価方法	詳細は、開講時に示す。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2 ~ 15	コースオリエンテーション 運動器系理学療法評価ならびに治療の総論・各論	科目の概要・講義スケジュール 詳細は、開講時に示す	. 基礎理学療法学 3. 理学療法の基礎理論 . K. 関節可動域運動の理論 a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限(拘縮・強直を含む) L. 神経・筋機能の理論 a. 中枢神経系 (覚醒、促進、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮) b. 末梢神経系 (伝導、再生、運動麻痺など) c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩 e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮 M. 運動制御・運動学習の理論 a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック N. 痛みの理論 a. 評価 b. メカニズム c. 病態 O. バイオメカニクス

教科書	中村 利孝：標準整形外科学．医学書院 片田重彦/吉澤英造：整形外科手術 後療法ハンドブック．南江堂 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 総論．医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 各論．医学書院 松澤 正：理学療法評価学．金原出版
参考書	

授 業 科 目 名	運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	単 位 認 定 者	城 下 貴 司
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習・実習
科 目 の 目 的	運動器系疾患理学療法学の各論に関し、講義と演習を通じ理解する。幅広い運動器系の中から、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、脊髄損傷、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げ、通常の座学講義に加え、一部PBL デモンストレーションとしての演習を通じ、理学療法士としての対応方法を学ぶ。また、運動器系疾患・障害の特異的検査・測定方法については、実技演習を導入し、実施できるようにする。
学 習 到 達 目 標	詳細は、開講時に示す。
関 連 科 目	運動器系理学療法評価・治療学 ・ 運動器系理学療法評価・治療学演習
成 績 評 価 方 法	詳細は開講時に示す。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 ~ 15	コースリビジョン 運動器系理学療法評価ならびに治療・ADL指導に関する演習	科目の概要・講義スケジュール 詳細は開講時に示す	・基礎理学療法学 3. 理学療法の基本理論 . P. 関節可動域運動の理論 a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限（拘縮・強直を含む） Q. 神経・筋機能の理論 a. 中枢神経系 （覚醒、促進、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮） b. 末梢神経系 （伝導、再生、運動麻痺など） c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩 e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮 R. 運動制御・運動学習の理論 a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック S. 痛みの理論 a. 評価 b. メカニズム c. 病態 T. バイオメカニクス

教 科 書	中村 利孝：標準整形外科学，医学書院 片田重彦/吉澤英造：整形外科手術 後療法ハンドブック，南江堂 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 総論，医学書院 奈良 勲（監修）：標準理学療法学 運動療法学 各論，医学書院 松澤 正：理学療法評価学，金原出版
参 考 書	

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実技
科 目 の 目 的	脳神経など末梢神経と中枢神経系疾患に生じる障害の評価のための検査法と検査結果を如何に統合解釈し、問題を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射、病的反射、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、高次脳機能検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる。 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる。 3. 検査結果を統合・解釈し、問題点を抽出、目標を決定することができる。
関 連 科 目	運動学・臨床運動学、臨床神経学・理学療法評価学、理学療法評価学演習、臨床動作分析学、神経系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	神経系の理解(1)	筋紡錘の構造と機能	-2. 基本評価 B. 運動系 e. 筋緊張 f. 反射 g. 協調機能 h. 平衡機能 i. 脳神経(運動系) C. 感覚系 a. 体性感覚(皮膚感覚, 深部感覚) b. 特殊感覚 c. 痛み D. 認知・高次機能 a. 知的機能 b. 注意 c. 失語・失行・失認 d. 記憶・遂行機能 F. 動作 a. 基本動作 b. 歩行分析 H. 臨床評価指標 a. 各疾患の評価指標 b. 各障害の評価指標
2	神経系の理解(2)	中枢神経系の解剖と生理	
3	検査各論(1)	片麻痺機能検査	
4	検査各論(2)	片麻痺機能検査	
5	検査各論(3)	筋緊張検査, 反射検査	
6	検査各論(4)	反射検査	
7	検査各論(5)	感覚検査	
8	検査各論(6)	小脳機能検査	
9	検査各論(7)	脳神経検査	
10	検査各論(8)	バランス機能検査	
11	検査各論(9)	高次脳機能検査: 意識障害, 知能	
12	検査各論(10)	高次脳機能検査: 言語障害, 失認と失行	
13	検査各論(11)	神経疾患の異常動作と評価	
14	検査統括	問題点抽出, ゴール設定, 統合と解釈および考察	
15	まとめ	まとめ	

教 科 書	「理学療法評価学第2版」松澤正(金原出版) 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義明ら(南山堂) パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	「臨床評価指標入門 - 適用と解釈のポイント」内山靖, 小林武, 潮見泰三編(協同医書出版社) 「片麻痺の運動療法」シゲ・ブルンストローム著, 松村秩訳(医師薬出版)

授 業 科 目 名	神経系理学療法評価・治療学演習	単 位 認 定 者	鈴 木 学
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実技
科 目 の 目 的	脳出血や脳梗塞などの脳血管障害，外傷性頭部損傷，脳腫瘍の症状と、それにともなう障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法、具体的には運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法、リスク管理方法について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。具体的には急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得を目指し評価から効果判定まで、系統的な理学療法ができるようにする。
学 習 到 達 目 標	1.脳血管障害、頭部外傷，脳腫瘍などに生じる障害について説明できる。 2.片麻痺障害や四肢麻痺に対する理学療法おける評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 片麻痺障害や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、臨床神経学、臨床神経学、小児科学、神経系理学療法評価・治療学、神経系理学療法学演習、評価学実習、総合臨床実習、総合臨床実習
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	片麻痺の病態(1)	片麻痺を生じる疾患	-3.各領域の評価 B.中枢神経障害 a.脳血管障害 c.外傷性脳損傷 d.脳腫瘍 -2.基本介入手段 A.運動療法 B.物理療法 C.補装具療法 b.装具 c.車椅子・座位保持装置 e.歩行補助具 D.ADLとQOL E.リスク管理 -3.各領域の治療 B.中枢神経障害 a.脳血管障害 c.外傷性脳損傷 d.脳腫瘍 I.その他の疾患 j.廃用症候群
2	片麻痺の病態(1)	片麻痺の機能障害と回復過程	
3	片麻痺の理学療法(1)	片麻痺の回復時期別の理学療法と治療の原則	
4	片麻痺の急性期理学療法(1)	ベッドサイド訓練の実際とリスク管理	
5	片麻痺の評価	評価項目とその意義	
6	片麻痺の回復期理学療法(1)	起居移動動作の実際	
7	片麻痺の回復期理学療法(2)	起居移動動作の実際	
8	片麻痺の回復期理学療法(3)	起居移動動作の実際	
9	片麻痺の回復期理学療法(4)	起居移動動作の実際	
10	片麻痺の回復期理学療法(5)	四肢の分離運動の促進	
11	片麻痺の回復期理学療法(6)	歩行訓練	
12	片麻痺の回復期理学療法(7)	歩行訓練	
13	片麻痺の回復期理学療法(8)	筋緊張のコントロール，押す人症候群，片麻痺の肩	
14	片麻痺の慢性期理学療法	維持期理学療法と在宅指導	
15	総括	まとめ	

教 科 書	「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編（医歯薬出版） パワーポイント資料を PDF ファイルにて配布予定
参 考 書	「Steps to Follow」P.M.デービス著（シュプリンガー・フェアラーク東京） 「Right in the Middle」P.M.デービス著（シュプリンガー・フェアラーク東京）

授 業 科 目 名	物 理 療 法 学	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と実習
科 目 の 目 的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、電気療法、電気診断、超音波療法、マッサージ、牽引療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項を習得させることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	臨床実習において、物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを旨とする。
関 連 科 目	生理学 ・ 運動学 ・ 内科学 整形外科学 基礎理学療法学
成 績 評 価 方 法	筆記試験、実習レポートと授業中の学習態度等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3 4 5 6 7 8 9 ~ 14 15		物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類 電気療法（電気療法の定義、分類、電気的基础、電気生理学） 電気療法（低周波療法、経皮的電気刺激療法、干渉波療法、機能的電気刺激法） 電気診断（クロナキシー、SD曲線、誘発筋電図） 超音波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際） マッサージ（定義、生理学的作用、基本手技） マッサージ（身体各部の手技の実際） 牽引療法（牽引療法の定義、生理学的作用、実際） 以上、講義で取り上げた治療法と診断法（SD曲線、クロナキシー、誘発筋電図、低周波療法、SSP療法、干渉波療法、超音波療法、牽引療法）について、グループワークを週毎に治療法を変えて実習する。 まとめ	-1. 運動療法 A. 理論と基本技術 m. マッサージ -2. 物理療法 A. 理論と基本技術 a. 温熱・寒冷療法 b. 電気刺激療法 c. 電磁波療法 d. 光線療法 e. 超音波療法 f. 水治療法 g. 牽引療法

教 科 書	「物理療法学」松澤正他（金原出版）
参 考 書	

授業科目名	日常生活活動学	単位認定者	蛭間基夫
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義及び実技
科目の目的	人間が日常生活を営んでいく上で行われる基本動作である起居・移動、食事、排泄、入浴、更衣、整容などを取り上げ、それらの動作の分析・評価方法、また、障害をもつ患者さんへの練習・指導方法などについて学習する。さらに日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具、車いすなどの使用法、適応などについて学ぶ。
学習到達目標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的な ADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含む ADL を運動学的にとらえ、模倣することができる。 4. 移動補助具の基本構造が説明でき、使用することができる。
関連科目	日常生活活動学演習、理学療法評価学、臨床動作分析学、生活環境学、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、装具学、義肢学
成績評価方法	定期試験に加え、小テスト、課題、学習態度などを総合的に判断する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション 概論 1	ガイダンス ADL の概念と範囲	-4. 日常生活活動 (ADL) A. 概念と分類 a. 概念・範囲・意義 b. ADL, 生活関連活動, QOL -2 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 m. ADL 評価 -4. 日常生活活動 (ADL) B. 基本技術と適応 b. 起居移動動作 c. トランスファー -3. 補装具療法 C. 車いす・椅子 D. 歩行補助具 -2. 生活環境整備 B. リハビリテーション関連機器 a. 福祉用具 b. コミュニケーション機器
2	概論 2	ADL の評価: 目的・基準・尺度	
3	各論 1	ADL の評価: 代表的な評価表	
4	各論 2	ADL の評価: 代表的な評価表	
5	各論 3	セルフケアの構成要素 (食事・排泄・更衣・入浴・整容)	
6	各論 4	セルフケアの構成要素	
7	各論 5	基本動作	
8	演習 1	基本動作	
9	各論 6	移動補助具 (杖・松葉杖)	
10	演習 2	移動補助具 (杖・歩行器) 複合動作訓練	
11	各論 7	移動補助具 (車いす)	
12	演習 3	移動補助具 (車いす) 複合動作訓練	
13	演習 4	移動補助具 (車いす) 複合動作訓練	
14	各論 8・演習 5	リハビリテーション支援機器 (移乗関連機器・自助具)	
15	総括	まとめ	

教科書	「日常生活活動 (ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫), 「新版 姿勢と動作~ADL その基礎から応用~」斉藤 宏他著(メヂカルフレンド社)
参考書	「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集(医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見 隆正編集(医学書院) 「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋 正明編集(医学書院)

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学 演 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 演習, 実技
科 目 の 目 的	日常生活活動学で学んだセルフケアや基本動作について, 疾患, 障害別に分析・評価および練習・指導方法を学習する。具体的には, 中枢神経疾患, 脊髄損傷, 関節リウマチ, 骨・関節疾患, 筋萎縮性側索硬化症などの疾患特有な障害に対し, 歩行補助具, 車いす, 自助具, コミュニケーション装置の使用手法を含めた日常生活へのアプローチ技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 各障害の ADL の特徴を列挙できる。 2. 各障害の ADL 評価ができる。 3. 各障害の ADL 指導の実際ができる <各動作の手順の説明, 必要な介助方法を演示し確認する > 4. 各障害に必要な自助具, 福祉機器を選定できる。
関 連 科 目	日常生活活動学, 生活環境学, 地域理学療法学, 地域理学療法学演習, 運動器系理学療法評価・治療学・神経系理学療法評価・治療学・呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学, 小児理学療法学, 運動器系理学療法評価・治療学演習, 神経系理学療法評価・治療学演習, 呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習
成 績 評 価 方 法	定期試験に加え, 小テスト, 課題, 学習態度などを総合的に判断する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	各障害領域に対する ADL 指導	脳卒中片麻痺(1)	- 2 . 基本的評価法 A . 評価の過程と方法 m . ADL 評価 - 4 . 日常生活活動 (ADL) B . 基本技術と適応 a . 各領域における ADL 指導 b . 起居移動動作 c . トランスファー - 2 . 生活環境整備 B . リハビリテーション関連機器 a . 福祉用具 b . コミュニケーション機器
2		脳卒中片麻痺(2)	
3		脳卒中片麻痺(3)	
4		頸髄損傷(四肢麻痺)(1)	
5		頸髄損傷(四肢麻痺)(2)	
6		胸腰髄損傷(対麻痺)(1)	
7		胸腰髄損傷(対麻痺)(2)	
8		関節リウマチ(1)	
9		関節リウマチ(2)	
10		骨関節形態障害(変形性関節症:膝・股)	
11		筋ジストロフィー症	
12		筋萎縮性側索硬化症 上記疾患の ・ ADL の特徴 ・ ADL 評価 ・ ADL 指導の実際	
13	車いす	車いすの操作と介助(演習 1)	
14		車いすの操作と介助(演習 2)	
15		まとめ	

教 科 書	「日常生活活動 (ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫), 「新版 姿勢と動作 ~ADL その基礎から応用~」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集 (医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見 隆正編集 (医学書院) 「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋 正明編集 (医学書院) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂, 柳澤健編 (協同医書出版社)

授 業 科 目 名	見 学 実 習	単 位 認 定 者	蛭 間 基 夫
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 学外演習 (1週間)
科 目 の 目 的	病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し, 社会人・専門職としての基本的態度を養い, また, 見学施設での理学療法士の役割, 理学療法業務, リハビリテーションの中での位置づけを理解することを目的とする。 3年次での評価学実習, 4年次の総合臨床実習 に向けての導入, 準備のための実習と位置づける。
学 習 到 達 目 標	1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ, 他職種との関連を理解する。 3. 見学施設における理学療法の対象を理解する。 4. 見学施設における理学療法業務を理解する。
関 連 科 目	評価学実習, 総合臨床実習, 総合臨床実習
成 績 評 価 方 法	出席状況・レポート・実習後報告会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
	オリエンテーション	見学実習の実習目的, 目標, 実習内容等の説明	
	見学実習	病院等実習施設における見学実習	
	実習後報告会	見学実習で学んできたことについての報告会	

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」鶴見隆正編 (医学書院) 「実習の達人 学生編」理学療法科学学会編 (アイベック)